

経営（事業）計画書

令和 8 年度（第 53 期）



社会福祉法人さつき会

法人の経営理念(願うこと)

『私たちは、社会福祉事業を通して地域社会・住民にとってなくてはならない存在であり続ける。』

(趣旨)

社会福祉法人さつき会は、地域や施設において『尊厳にみちた環境で人としてごく当たり前の生活を保障されるべき高齢者』に対して、常に高齢者の立場に立った良質高度な高齢者福祉サービスを提供し、地域から、社会から愛され、信頼される事業主体になることを目指すこと。

法人の使命(果たすこと)

『高齢者の自立した尊厳ある、人間らしい生活を守る』

法人のビジョン(目指すこと)

- 一 自分が入りたいと思える施設をつくる
- 一 自分が住み続けたいと思える地域をつくる
- 一 自分と仲間が働きやすく働きがいのある職場をつくる

法人の介護理念(大切にすること)

- 一 人間尊重
一人ひとりをかけがえない人間として大切にします
- 一 当事者主体
その人の人生や生活の主体は、相手にあることを大切にします
- 一 利用者本位
常に相手の身になり、相手の立場に立って考え行動することを大切にします

社 是(求められること)

自立(自律) 信頼 創造

一 自立(自律)

自ら考え、自ら判断し、自らの良心と社会的規範に従い行動し、決定する。その結果について自ら責任を持つ。職員一人ひとりが自立(自律)の心を真に理解し、育み、持てる力を十分に発揮することによって、法人の発展と自己実現の達成に結びつけていくことを目指すものである。

一 信頼

法人の持続的な発展のためには、職員相互の信頼関係を大切にし、サービス・活動を通して顧客満足度をより一層高め、お客様の信頼を得ることです。

一 創造

経営は創造であり、各職員一人ひとりが常に進取の心を養い、自己啓発を進め、知恵と創意と工夫によって優れた介護の技法を創造するとともに、職員の力を結集して豊かで安心できる高齢社会に貢献し得る介護サービスを創出していくことである。

社 訓(心がけること)

1. 常に主体性をもって行動します。

私たちは、自らの置かれた境遇や立場や状況を他人や私たちを取り囲むもののせいにするのではなく、先ず、その中で自分たちに何ができるかを考え行動します。

2. 常にお客様の身になって行動します。

私たちは、お客様を大切にします。ご利用者・お客様のニーズの把握に努め、具体的な内容として居室の清潔性、同居者との相性、入浴回数、食事内容、食事時間、職員の対応等種々多様に考えられます。それらのニーズに即応した良質な介護サービスが提供できるよう介護技術の専門性を磨き、気配りし、利用者・お客様に満足していただけるようお客様の身になって行動します。

3. 常に目的をもち計画的に行動します。

私たちは、計画、目的、反省、改善のないところには進歩はあり得ないことを肝に銘じ、計画・実践・反省評価のサイクルを全ての業務・活動の原則とし、1日・1週間・1か月・1年の単位において計画し、最終の姿(目的)を描いてから行動します。

4. 常に人を理解してから、理解されるよう努めます。

私たちは、自分たちのことを理解してもらおうとする前に、相手の言い分を十分理解しようと努めます。

5. 常に人と人との交わりの中で、相乗効果を発揮するよう努めます。

私たちは、自分の考えと異なる考えを柔軟に受け入れ、相違点を尊び、お互いのいいところは認め伸ばし、弱いところは合い補いながら、相乗効果が発揮されるよう努めます。

6. 常に重要事項を優先するよう、心がけます。

私たちは、日々の活動の中で、緊急ではないが、重要なことを意識的にスケジュール化して活動します。日々の学習であったり、将来を見据えた若手職員の育成であったり、つまり長いスパンで物事を考えた場合に重要なことをさします。

7. 常に相手と自分が共に満足する結果が得られることを考えて行動します。

私たちは、皆のために十二分な結果が得られることを信じ、自分だけの満足だけではなく、相手(時には顧客であり、上司であり、部下であり、同僚であり、協力者である)の満足を考え、双方にとって有益で満足のいく結果をめざします。

8. 常に自分自身を研ぐ努力をします。

私たちは、自分たちの生活において、肉体的・知的・社会的・情緒的・精神的に自分のもっている能力を維持し、伸ばすための時間を意識してつくります。

第7次＜2025-2027＞ さつき会中期経営3か年計画＜基本方針・全事業所職場目標・成果指標・重点事項＞

基本方針

1. 次世代の経営を担う人材を育成する。
2. すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
3. 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
4. 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
5. 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
6. 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

全事業所職場目標
『自ら学び 自ら考え 自ら動く』

成果指標＜人材・人事・組織＞		成果指標＜介護DX・生産性向上＞		成果指標＜事業・サービス＞		成果指標＜財務＞	
(ア)離職率5%以下 (イ)日本人の新卒者採用3名以上(年1名以上) (ウ)外国人介護人材就労率15%以上 (エ)次世代の経営を担う人材育成 6名以上 (オ)職員の職場満足度 80%以上		(ア)全事業所・介護施設・全居室に眠りスキャン・カメラ・センサー・インカム・Wi-Fiナースコール等の整備率 100% (イ)紙文書の電子保存化50%以上 (ウ)デジタル中核人材養成研修受講者 15名以上(年5名以上) (エ)自主的な業務改善活動 50%以上 (オ)残業時間 20%以上削減		(ア)特養・グループホーム稼働率98%以上 (イ)ショートステイ稼働率90%以上 (ウ)デイサービス利用者数1日40名以上 (エ)居宅利用者数240件以上(1人44件以上、管理者20件) (オ)小規模多機能ホーム登録者24名以上 (カ)サ高住稼働率94%以上 (キ)訪問介護月間訪問件数1,000件以上 (ク)インスタグラムの開設と質の高いコンテンツ発信 年365回以上 フォロワー数1,000人 (ケ)介護過程の実施率 100%		(ア)サービス活動収入 800,000千円以上 ※各サービスごとの目標活動収入設定 (イ)サービス活動増減差額 10%以上の達成 (ウ)人件費率64%以下 (エ)経費率(事務費・事業費)26%以下 (オ)施設整備等積立金300,000千円以上(年30,000千円以上) (カ)取得できる加算の取得率 100% (キ)基準昇給率2%以上、実質昇給率1.5%以上	
重点事項＜人材・人事・組織＞		重点事項＜介護DX・生産性向上＞		重点事項＜事業・サービス戦略＞		重点事項＜財務戦略＞	
主体性と経営視点を備えた次世代経営幹部の育成	・次世代の経営を担う人材育成研修の実施(年4回以上開催3か年)	介護DX・ICT活用による業務改善とサービスの質向上	・最新・最先端のテクノロジーの導入・活用(生産性向上推進委員会の活性化)	選ばれる施設・事業所	・暮らしの楽しみ・喜びを感じられるアクティビティの提供	全事業所の目標収益・目標利益の固守	・管理者以上及び総務課事務員が管理会計・財務マネジメント力を基礎から身につける
	・教育・キャリア形成を支援するための計画的な人事運用の実施		・業務改善のリーダーシップを担う(仮称)「生産性向上推進リーダー」の育成 ・利用者の状態変化の迅速な把握と適切なケア改善、医療連携の推進		・最新の知識と科学的根拠(データ・ガイドライン等)に基づくケアの提供 ・介護・看護・医療の連携強化(カンファレンス・勉強会の定例化)		・業績悪化リスクの早期発見と迅速な経営改善計画の策定と着手 ・施設毎の経費分析(事務費・事業費)と改善のPDCA化 ・原価に基づく利用料・自己負担金の設定

重点事項＜人材・人事・組織＞	
自らが参画する働きやすく、働きがいのある職場づくり	- モチベーション向上につなげる処遇改善の実施 - 多様で柔軟な働き方環境の拡充(フレックスタイム、年単位変形労働時間制、副業制度など) - 施設長と職員の1on1ミーティングの実施 - 定期面談制度の見直し(3人以上半数以下は、主任・課長等が実施) - 職員の声を経営に生かす意見交換会(経営幹部と職員、テーマごと)の実施 - 働きがい増進に結びつく表彰制度の拡充(良い挨拶賞、素晴らしいで賞、サンクス賞、チャレンジャー賞など) - 委員会活動・プロジェクト活動の推進 - 自主的な学びと業務活動への支援 - 人事異動・配置転換によるスキルアップ - 実践や成果につなげる研修制度の見直し - 基本理念・行動指針の明確化と、それに共感・共鳴する職員の育成 - 職務内容記述書の整備 - 理念具体化のために、学習・挑戦、成果に対する評価(公正で納得性の高い人事制度構築) - 鷹栖さつき苑40周年記念事業の企画準備実施

重点事項＜介護DX・生産性向上＞	
社内業務の見える化・仕組み化・標準化によるムリ・ムラ・ムタのない業務体制構築	- タイムスタディによる業務の現状把握・分析と非効率なポイントの特定 - 職員が主導する業務改善活動の実施(業務改善提案制度の創設、カイゼンシートの導入、業務改善アワード、成功事例共有など) 5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけく規律>)、3M活動(ムリ・ムタ・ムラの排除)の実施 - 人員配置の見直しと最適化

重点事項＜事業・サービス戦略＞	
在宅サービスの利用者数の増加と稼働率向上	・「短期・通所・訪問」各サービスの旭川市への市場拡大 ・特養・GH・サ高住待機者の確保と適正なベジトコントロール ・町外のニーズ掘り起こし、効果的なPR、居宅・地域包括支援センター・医療機関等の連携強化
既存事業・委員会の強化・拡張及び新規事業開発の検討	・訪問介護事業所・居宅介護支援事業所の町外進出とモデル事業所の企画 ・地域の福祉課題の発掘・可視化と新たな事業の創出 ・広報委員会の活動拡充。インスタ・ホームページを活用した情報の発信
安心・快適な居住環境の整備と防災対策の推進	・鷹栖さつき苑の大規模修繕・リノベーション工事の実施 ・(仮称)鷹栖さつき苑リノベーションプロジェクトチームの設置 ・各施設の中長期修繕計画(資金計画含む)の策定 ・地域住民と連携した防災計画と訓練の実施

重点事項＜財務戦略＞	
適切なケアプランに基づき加算の取得	・加算取得状況の可視化(取得している加算、取得できるが取得していない加算、取得できない加算) ・取得可能な加算取得のための計画策定(活動計画への落とし込み)
利益の適正な分配	・透明性のある業績手当制度の設計と導入検討 ・企業型拠出年金・財形貯蓄制度などの福利厚生導入検討と老後資産形成の支援 ・限定正社員制度の賃金改善の検討

1 第7次中期経営3か年計画 基本方針

社会福祉法人さつき会は、創設以来「良いケア・良い職場・良い経営」の精神を大切にし、地域福祉の発展に尽力してきた。令和7年度を迎えるにあたり、社会環境や福祉・介護業界を取り巻く状況は大きく変化し、私たちはこれまで以上に柔軟な対応と進化が求められている。

第7次中期経営3か年計画では、「持続的な成長を実現する法人経営」と「より質の高い福祉介護サービスの提供」を両輪とし、未来に向けた基盤強化と新たな価値創造を目指し、以下の6つの基本方針を掲げ、成長戦略を力強く推進する。

1. 次世代の経営を担う人材を育成する。
2. すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
3. 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
4. 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
5. 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
6. 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2 令和8年度 全事業所職場目標

『自ら学び 自ら考え 自ら動く』

【自ら学び】

専門職・職業人としてのプロ意識を持ち、常に最新の知識・技術・考え方を積極的に学び、実践も結びつける。継続的な学びを通じて自己成長を促し、自らの仕事に使命と誇りを持つことで、事業活動推進と法人の発展に貢献する。

【自ら考え】

与えられた業務を受動的にこなすのではなく、「より良いケア・サービスとは何か」を常に問い続ける。目の前の課題に対しては、「何が最適か」「自分に何ができるか」という主体的な視点で考え、その考えや意見を提案として発信する姿勢を習慣化し、生産性向上とサービスの質向上に貢献する。

【自ら動く】

学びと考えを迅速に行動へ移し、より良い職場環境とサービスの創出につなげる。主体的な実践と職域・職種・立場を超えた相互の協働により、組織全体の成長と発展に貢献する。

3 令和8年度 事業活動のポイント

本年度は、第7次中期経営計画の2年目として、将来の法人経営を担う次世代人材の育成と、職員一人ひとりの働きがいと成長の実現を中核に据えるとともに、成果を生み出す生産性向上を牽引するリーダーの育成を推進し、全事業所における目標収益・目標利益の確実な達成を重点課題として位置づける。

これらの取り組みを通じて、「良いケア・良い職場・良い経営」の実現をさらに高い次元で追求し、質の高い福祉サービスの提供と持続可能な経営基盤の確立に向け、組織一丸となって取り組む。

(1) 人材・組織の強化

重点事項	取り組み事項	成果指標
主体性と経営視点を備えた次世代経営幹部の育成	(ア) 法人の持続的成長には、「ケアと経営（マネジメント）」の両方の視点を持ち、組織を牽引できる次世代の経営を担うリーダーの育成が不可欠である。経営戦略・組織マネジメント・課題解決力・リーダーシップを養う実践的な研修を年4回以上実施するとともに、外部研修や他法人との交流を通じ、広い視野を持つ人材の育成を図る。	研修参加率 80%以上 次世代の経営を担う人材育成3名以上
自らが参画する働きやすく、働きがいのある職場づくり	(ア) 「介護職員等処遇改善加算」を活用し、職員のモチベーション向上につながる処遇改善を図るとともに、キャリアパスと給与制度の見直しに着手する。 (イ) 柔軟な働き方推進と職員一人ひとりが最大限の能力を発揮できる環境を整えるため、フレックスタイム制拡充、年単位の変形労働時間制を導入し、働き方の選択肢を広げる。さらに、副業制度創設を通じて職員のスキル向上やキャリアの多様化を支援し、ワークライフバランスの充実を通じて、職員の満足度向上を図る。 (ウ) 職員一人ひとりの成長と働きがい高めるため、施設長と職員が定期的に 1on1 ミーティングを実施する。 (エ) 定期面談制度を一部見直し、主任・課長が一般職・総合職等の面談を実施し、職員の意見や提案を直接聞くことで、現場の課題解決や職場環境の改善につなげる。	離職率 5%以下 日本人の新卒者採用1名以上 外国人介護人材就労率 10%以上 職員の職場満足度 70%以上

	(オ) 感謝や称賛を可視化し、働く喜びを共有することで、組織全体のモチベーション向上と成長につなげるために、職員表彰制度を拡充する。 (カ) <u>カスタマーハラスメント対策を推進し、職員の尊厳と安全を守る組織体制の強化を図る。</u>	職員研修 年1回以上
個々の強みを生かした、成長し続ける人づくり	(ア) 職員一人ひとりが主体的に関わる委員会活動・プロジェクト活動を通じて、課題解決に取り組むとともに、全職員が協力し合い、組織全体の発展に貢献できる仕組みを整備する。 (イ) 職員による自主的な学びと業務改善活動に活かすことを支援する環境を整備する。 (ウ) 人事異動・配置転換（ジョブローテーション）を積極的に実施し、職員の能力開発・部門間の連携推進と業務の属人化防止を図る。 (エ) 研修内容の見直しを行う、座学中心の学習から、現場での実践的なケーススタディを取り入れたプログラムへと進化させるとともに、研修後のフォローアップを強化し、学んだことを確実に現場で活かせる仕組みを構築する。 (オ) 対人援助による感情労働の職種が多い事業特性を踏まえて、ストレスマネジメント研修の実施、有給休暇・リフレッシュ休暇の取得推進を通じて、安心と希望を持ち長く働ける職場環境を持続する。 (カ) プロフェッショナルな介護福祉従事者の安定確保を図るため、介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員等の資格取得及び外国人介護福祉人材の介護職員初任者研修取得・語学力向上を推進する。	自主的な業務改善活動 30%以上 リフレッシュ休暇7日以上 外国人介護職員初任者研修1名以上
基本と規律を大切にし、理念を実践する組織づくり	(ア) 法人の理念や行動指針を明確に示し、全職員がその意義を深く理解し、日々の業務に反映できる環境を整備する。 (イ) 職員一人ひとりが自らの役割を理解し、責任を持って業務に取り組めるよう、職務内容記述書（ジョブディスクリプション）を整備する。 (ウ) 法人の基本理念・ビジョンに共感・共鳴し入職を志す職員を採用するため、新規卒者及び転職者希望者を対象とした、合同企業説明会に参加するとともに	全事業所 行動指針・月間目標作成率 100% 日本人の新卒者採用1名以上

	に、法人独自の入社説明会・インターンシップを開催する。また、若手職員を巻き込みながらSNS・オンラインによる法人の魅力発信を日常化し、LINE・オンライン等による求職者からの質問・申込みに対応する。	
--	---	--

(2) 介護DX推進・生産性向上

重点事項	取り組み事項	成果指標
介護DX・ICT活用による業務改善とサービスの質向上	(ア) <u>生産性向上推進委員会を常設し、PDCAサイクルに基づく現場課題の見える化と継続的な改善活動を推進するとともに、ICT・介護ロボット・AI等の先進技術を活用し、業務の効率化、職員の負担軽減およびサービスの質向上を実現することで、成果を創出する委員会活動を展開する。</u> (イ) 法人全体の生産性向上と業務改善を推進するため、各部署・施設においてリーダーシップを発揮できる「生産性向上推進リーダー」を育成する。 (ウ) ICT・データー等を活用したケアにより、利用者の状態変化を迅速に把握と医療連携を強化し、早期対応や予防的アプローチを推進する。 (エ) <u>利用者・職員の双方にとって、安全かつ安楽な移乗ケアの確立に向け、ノーリフトケアの全面導入を計画的に推進する。</u>	<u>全事業所・全課による委員会活動年10回以上と改善実施1件以上</u> 眠りスキャン・カメラ・センサー・インカム・Wi-Fiナースコール等の整備率50% デジタル中核人材養成研修受講者5名以上 全ての業務時間を10%以上削減、紙文章の電子保存化50%以上 ノーリフトケアコーディネーター養成講座（ベーシック）を3名受講

社内業務の見える化・仕組み化・標準化によるムリ・ムラ・ムダのない業務体制構築	(ア) 業務の効率化と生産性向上を図るため、「タイムスタディ」を実施し、各業務の所要時間やプロセスを詳細に把握・分析する。得られたデーターを基に、業務フローの最適化、業務分担の見直し、不要な業務の削減を図る。 (イ) 「業務改善提案制度」を創設し、日々の業務における課題や改善策を積極的に提案できる仕組みを整備する。また、「カイゼンシート」の導入により、改善のプロセスを可視化し、継続的な改善を支援する。さらに、「業務改善アワード」を実施し、優れた取り組みを表彰することで、職員の意欲向上と組織全体の改善文化を根付かせる。 (ウ) DX・ICTの活用や業務プロセスの見直しにより、人員配置の見直しと最適化を図る。	自主的な業務改善活動 30%以上
--	---	---------------------

(3) 事業・サービスの拡充

重点事項	取り組み事項	成果指標
選ばれる施設・事業所	(ア) 利用者が楽しみ充実した日々を過ごせるよう、各施設・事業所において「アクティビティ活動」を担う委員会・係りを明確に取り決め、企画・実施する。 (イ) 多職種協同によるエビデンスに基づくケア（トータルケア）の考え方と医療・介護の最新データーやガイドラインを活用しながら、ケアの質を向上させる。 (ウ) 多職種による定期的な勉強会・カンファレンスを通じて職員の専門性を高め、科学的アプローチに基づいた支援を実施する。 (エ) 自立度の高い方から嚥下・摂食障害のある方まで、「より美味しく、より安全に食べること」を実現するため、介護・看護・栄養・調理員、委託業者が一体的になり食事サービスの質向上を図るとともに、適正な予算の下に給食サービス業務が行われるよう新食事サービスシステムの導入を図る。 (オ) 職員が地域へ出向き介護講座やサロンの開催や、集会などへ積極的に参加することで地域との交流を図る。その活動により地域住民に「高齢期における健康・介護リスクと予防法」についての理解を深めて	<u>入居系事業所のアクティビティ活動を週1回以上実施</u> <u>ケア記録のWチェック実施率100%</u> 介護過程の実施率 80%以上 食事の満足度（全体的な内容） 80%以上満足

	いただくと共に、職員自身が地域を知り、地域を学び安心できる地域づくりに貢献する。	
在宅サービスの利用者数の増加と稼働率向上	(ア) 団塊世代をターゲットにした健康増進・認知症予防・趣味活動・ICT 活用を柱とした新たなサービスを開発し、魅力ある事業所づくりを推進する。 (イ) 増大する旭川市の介護ニーズを的確に捉え、新たな利用者の獲得に向けた広報・連携の強化により、短期入所、通所介護、訪問介護の提供体制を強化し、旭川市内での市場拡大を図る。 (ウ) 特養ホーム、グループホーム、サービス付き高齢者向け住宅の待機者管理を強化し、適正なベッドコントロールを実施する。 (エ) 町外の居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、医療機関との連携を強化し、円滑な情報共有と支援体制の構築を図り、新たな利用者の開拓を推進する。	
既存事業・委員会の強化・拡張及び新規事業開発の検討	(ア) 今後の事業展開の指標となる「訪問介護・居宅介護支援事業所の町外進出モデル事業所」の企画づくりを実施する。 (イ) 地域社会が抱える福祉課題は多様化・複雑化しており、従来の介護サービスだけでは十分に対応できない課題も増えている。さつき会は、社会福祉法人として、介護にとらわれず、子ども・高齢者・障がい者・生活困窮者など、幅広い視点で地域の福祉ニーズを発掘・可視化し、包括的な支援体制の構築を検討する。 (ウ) 広報委員会の役割を強化し、法人の取り組みや施設の魅力をより多くの方に伝えるため、情報発信の手法を拡充する。特に、ホームページの充実やインスタグラムなどの SNS を活用し、リアルタイムな情報提供や利用者・地域との双方向のコミュニケーションを促進する。これにより、法人の認知度向上、採	Instagram の開設と質の高いコンテンツ発信 年 365 回以上 フォロワー数 500 人

	用活動の強化、地域とのつながりの深化を図る。	
安心・快適な 居住環境の整 備と防災対策 の推進	(ア) 鷹栖さつき苑は、施設の老朽化や利用者ニーズの変化に対応するため、大規模修繕・リノベーション工事を実施する。これにより、居住環境の快適性を向上させるとともに、職員の働きやすさも考慮した施設づくりを推進する。 (イ) 本工事を円滑かつ効果的に進めるため、経営者・職員の代表者や建築専門家を中心とした「鷹栖さつき苑リノベーションプロジェクトチーム」を常置する。本チームは、利用者・職員の意見を反映した設計・計画の策定、施工管理、運用体制の整備を担い、施設の価値向上に向けた取り組みを推進する。 (ウ) 鷹栖なごみの家・ぬくもりの家えん・サ高住たかほの老朽化対策と快適な環境の維持・向上を目的に、中長期的な修繕計画を策定する。また、修繕費用の適正な見積もりと財源の確保を行い、資金計画と一体化した運用を推進することで、持続可能な施設運営を実現する。 (エ) 災害・感染症の業務継続計画（ＢＣＰ）に基づき、災害時に必要な能力を身につけられる研修を全ての事業所・部署において実施する。 (オ) 地域住民との協同による定期的な防災訓練を実施し、災害時の対応力を強化するとともに、地域との協力体制を構築し、共に支え合う防災ネットワークを形成する。	

(4) 財政基盤の安定

重点事項	取り組み事項	成果指標
全事業所の目標収益・目標利益の固守	(ア) 主任以上の役職者および総務課事務員は、経営視点を持ち、目標収益確保・適正利益確保に貢献できるよう管理会計と財務マネジメント（財務指標の分析、コスト管理、予算策定・運用の知識等）を基礎から習得する。 (イ) 定期的な財務分析や業務データのモニタリングを強化し、業績悪化の兆候を早期に察知し、迅速に対応する。 (ウ) 各施設における経費（事務費・事業費）の詳細な分析を行い、コスト構造を可視化することで、無駄の削減や効率的な資源配分を推進する (エ) 各サービスの食事代・エネルギー等にかかる原価を的確に把握し、適正な利用料や自己負担金を設定する。 (オ) <u>国・自治体等の補助金・助成金に関する情報収集を強化し、計画的かつ戦略的な活用を図ることで、財務基盤の強化と事業推進の加速につなげる。</u>	サービス活動収入 800,000 千円以上 サービス活動増減差 額 10%以上 人件費率 64%以下 経費率（事務費・事業費）26%以下 施設整備等積立金 年 30,000 千円以上)
適切なケアプランに基づく加算の取得	(ア) より質の高いサービス提供と持続可能な経営基盤を両立するために取得可能な加算を最大限活用することが重要である。現在取得している加算、取得可能でありながら未取得の加算、制度上取得が難しい加算を分類・整理し、可視化することで、適切な加算取得の推進を図る。 (イ) 各事業所において、制度改正や最新の加算要件を正確に把握し、適用可能な加算を洗い出した上で、計画的に取得を進める。具体的には、加算取得に必要な要件を満たすための職員教育や業務フローの見直し、ICT・DX の活用を推進し、日々の業務プロセスに落とし込むことで、着実な運用を図る。	取得できる加算の取得率 80%
利益の適正な分配	(ウ) 職員一人ひとりの「より良い施設運営・法人経営」への貢献を適正かつ<u>公正</u>に評価し、働きがいの向上と<u>組織の活性化</u>につなげるため、透明性と納得性の高い業績給・業績手当制度等の設計・導入・<u>運用を推進</u>する。	基準昇給率 2%以上（ベースアップ含む）、実質

	(エ) 職員の将来の安心と生活の安定を支援するため、企業型拠出年金や財形貯蓄制度などの福利厚生を導入を検討する。資産形成に関する相談や研修の機会を設け、制度の理解を深めるとともに、一人ひとりの将来設計を支援する。 (オ) 多様な働き方を支援し、職員の定着率向上とモチベーション向上を図るため、限定正社員制度の賃金体系の見直しを検討する。	昇給率 1.5%以上 (ベース アップ含 む)
--	--	--

3 計数計画（事業活動収入）

単位:千円

事業所	令和7年度 当初予算	令和8年度 当初予算	差異	予算上の 積算根拠	業績管理上の 目標値
法人本部	7,005	6,257	-748		
特養ホーム鷹栖さつき苑	232,063	238,885	6,822	稼働率96%	稼働率98%
ショートステイ	32,415	36,713	4,298	稼働率87%	稼働率92%
デイセンターさつき苑	77,937	89,585	11,648	1日平均32名	1日平均34名
介護センター	32,860	31,020	-1,841	利用者平均220名	利用者平均220名
GHなごみの家	89,455	92,195	2,740	稼働率97%	稼働率98%
SHなごみの家	66,652	69,363	2,711	登録者平均23名	登録者平均24名
特養ホームぬくもりの家えん	108,150	112,918	4,768	稼働率97%	稼働率98%
SHぬくもりの家えん	66,494	66,876	383	登録者平均23名	登録者平均24名
サービス付き高齢者向け住宅 ぬくもりの家たかほ	31,397	32,322	925	稼働率97%(17.5名)	稼働率98%(17.6名)
ヘルパーステーション	37,524	39,644	2,120	月間訪問830件	月間訪問930件
地域介護予防活動支援事業	4,739	4,719	-20		
地域リハビリテーション活動支援事業	1,535	1,459	-76		
介護予防普及啓発事業	4,434	4,754	320		
認知症総合支援事業	352	352	0		
地域交流スペース運営事業	291	322	31		
在宅医療・介護連携推進事業	22	22	0		
合計	793,326	827,406	34,080		

4 第7次中期経営業績計画

事業所名	7 計画	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	6 実績	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
特養ホームさつき苑稼働率	7 次計画	98.0%	98.0%	98.0%
	6 次実績	95.7%	99.6%	96.0%
ショートステイ稼働率	7 次計画	95.0%	95.0%	90.0%
	6 次実績	77.7%	85.1%	77.7%
デイセンター1 日平均利用者	7 次計画	30 人	34 人	40 人
	6 次実績	21.5 人	23.2 人	29.6 人
介護センター年間平均利用者実人数	7 次計画	223 人	220 人	230 人
	6 次実績	189 人	191 人	201.9 人
グループホーム稼働率	7 次計画	98.0%	98.0%	98.0%
	6 次実績	99.0%	99.7%	95.1%
小規模多機能なごみの家 年間平均登録者人数	7 次計画	24 人	24 人	24 人
	6 次実績	22.4 人	19.8 人	19.8 人
特養ホームぬくもりの家えん稼働率	7 次計画	98.0%	98.0%	98.0%
	6 次実績	92.9%	96.5%	95.6%
小規模多機能ぬくもりの家えん 年間平均登録者人数	7 次計画	24 人	24 人	24 人
	6 次実績	22.3 人	22.8 人	21.8 人
サービス付き高齢者向け住宅稼働率	7 次計画	94.4%	94.4%	94.4%
	6 次実績	99.1%	99.3%	96.0%
ヘルパーステーション 月間延べ訪問回数	7 次計画	830 回	900 回	1,000 回
	6 次実績	831 回	864 回	742 回

5 組織機構

別紙1「組織機構図」のとおり

6 要員計画

期首人員 155 名（正職 92 名、パート 63 名）

期末人員 160 名（正職 95 名、パート 65 名）

（1）新規学卒者（四大卒 2 名、専門学校 1 名）の介護職員を 3 名採用（補充）する。

（2）新規の技能実習生 3 名を採用（補充）する。

(3)組織体制の強化を図るため、指導職（リーダー）としての職務に従事する職員を2名昇格させる。

7 部門別事業計画書

別紙2「事業計画書（部門計画）」のとおり

8 年間行事・研修予定・ブログ当番表

別紙3「令和8年度 行事・研修予定表」「令和8年度 ブログ当番表」のとおり

9 収支予算書

別紙4「資金収支予算書（当初）」「事業活動計算書（当初）」のとおり

事業所名(部署)	法人本部
----------	------

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (5) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) 職員の成長を実感できる研修の運営。
- (2) 外国人スタッフが安心して地域に住み働くことができる環境をつくる。
- (3) 働きやすく、働きがいのある職場づくりと多様なリクルート活動の展開。
- (4) 介護ロボット・ICTの活用により介護の質の向上と生産性の向上。
- (5) 制度・法令の遵守と安定した法人運営。
- (6) 次世代経営幹部の育成。
- (7) 特養さつき苑大規模改修、リノベーションに向けた取り組みと中期修繕計画の策定。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
1	(1)	職員の成長とレベルアップを図るための研修の企画と実施。	①社内研修の計画・実施・管理(セルフケア、ストレスマネジメント、フォローアップ研修など) ②基礎介護力向上研修の運営と研修内容の見直し。 ③人材育成システムを活用した職員研修・資格管理。(職員台帳の整備、人材育成システムの更新) ④エルダー指導項目の見直し。	継続	尾上	各担当
2	(2)	外国人人材の受入れ及び定着を支援する。	①初任者研修の受講推進と介護福祉士試験サポート。 ②技能実習生の受入・サポート。 <u>(目標新規採用2名)</u> ③ <u>特定技能介護の採用・サポート。(目標新規採用2名)</u> ④ <u>育成就労制度移行の準備(受入要件関連資格取得など)</u>	新規／継続	尾上	佐藤
3	(3)	リクルート・広報活動の充実・推進。	①タイムリーに情報を発信できるホームページの運用。 ②多様な求人活動の展開・実施(オンライン就職説明会の開催、インターンシップの受入れの仕組みをつくる。) ③SNSを活用した情報発信の推進。	新規／継続	尾上	
4	(3)	計画的な人材確保と多様な働き方に対応できる職場環境づくり	①適正人員の確認と要員計画にもとづいた採用。 ② <u>社内副業制度の創設。</u> ③ <u>限定正職員制度の見直し。</u>	新規／継続	施設長	部長

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
5	(3)	働きやすく働きがいのある職場づくりと法人のブランディング戦略推進。	①働きやすい職場づくりと法人のブランディング戦略の推進(くるみん、えるぼし認定の取得)。 ②業績給制度の導入と運用。	新規／継続	尾上	舟根
			③カスタマーハラスメント対策の取り組み推進(基本方針策定、外部講師による研修会の実施)。 ④職員アンケートの実施と事業計画への反映。	新規	小 瀧	尾上
6	(3)	職員の労働環境の向上推進(衛生委員会)	①職員の腰痛に関するアンケート調査を実施・分析する。 ②通勤・就労中の転倒・転落事故 目標:ゼロ。	継続	衛生委員会	尾上
7	(4)	介護ロボット・ICTの推進により業務の効率化と生産性の向上。	①ペーパーレス化の推進(整理フォルダの構築とペーパーレス化が可能な書類のリスト化)。 目標:書棚保管の書類を50%削減。	新規	佐藤	小 瀧
			②勤怠管理ソフト導入と活用促進、効果検証。目標:勤怠申請・管理に関わる時間を50%削減。	新規	舟根	尾上
8	(5)	関係法令の遵守と社内規程等の整備・更新	①制度改正の情報収集(社労士・税理士との情報交換、研修会の参加)と対応。 ②介護保険制度改定の対応。 ③新制度・制度変更内容等の職員へわかりやすい周知。	新規／継続	尾上	各課長 総務課
9	(6)	次世代経営幹部候補の育成	①さつき会の未来を考え、未来を創る勉強会の定例開催(2か月1回)。 ②先進施設視察による情報収集と改善活動の推進。 ③施設長との1on1ミーティングの実施。 ④マネジメント・経営に関する研修の実施と外部研修への参加。	継続	施設長	部長
10	(7)	鷹栖さつき苑の大規模修繕・リノベーションに関わる資金計画策定と補助金申請準備	①大規模修繕・リノベーションの設計・資金計画等策定。 ②補助金申請の準備(老人福祉施設等整備事業費交付金、介護サービス提供基盤等整備事業費交付金等)。	新規	施設長	尾上 舟根
11	(7)	中長期的な修繕計画の策定	①なごみの家(22年目)、ぬくもりの家えん(17年目)、ぬくもりの家たかほ(9年目)の修繕計画の策定(資金計画含む)。 ②活用できる補助金の調査(老人福祉施設等整備事業費補助金、介護サービス提供基盤等整備事業費補助金)。	新規	佐藤	尾上

事業所名(部署)	総務課
----------	-----

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (5) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) 笑顔とやさしさ・思いやりのある心のこもった窓口対応に努める。
- (2) DX推進とスタッフの協働・連携により生産性を向上しサービスの質向上に努める。
- (3) 働きやすく働きがいのある職場環境づくりの推進。
- (4) 健全経営の推進。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
1	(1)	接遇と施設環境の整備向上	①電話対応・接遇マニュアルの更新と研修実施により、心温まるおもてなしの向上。 ②正面玄関、大ホールの季節に合わせたしつらえの質向上。	継続	舟根	佐藤
			③施設周辺の環境整備(屋上ドレン、屋外排水溝、庭木剪定、駐車場ラインひき) ④降雪期の建物状況把握と除雪(外部委託も含む) ⑤安全運行・動作のための車両及び機械設備等の計画的点検と整備の標準化とチェック体制の構築。	継続/新規	山本	尾上
2	(2)	仕事の見える化・生産性の向上とサービスの質向上	①ドキュワークスの伴走支援を受け、システム活用による事務作業の効率化・電子ファイル化と電子決済(総務課・管理者以上を対象)を導入する。	新規	佐藤	舟根
			②法人内事業所の日用品購入の一元化。 ③利用料請求書・領収書の電子化によるペーパーレス化とコスト削減(5年で-600,000円削減)。	新規	小畠	尾上
3	(3)	働きやすく・働きがいのある職場づくりの推進	①全事業所の5Sの定着を目的とした取り組みの推進(研修参加、他施設見学など) ②入居者との交流の機会をつくる(花植、散歩、季節のしつらえと一緒に飾るなど)	新規／継続	佐藤	小畠
			③勤怠管理システムの導入により適切かつ正確で効率的な勤怠管理。 ④電子給与明細導入検討。 ⑤年末年始の日直体制の見直し。	新規	舟根	尾上

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主 査	補 佐
4	(3) (4)	職員の資質向上のため研修受講・資格取得並びに課内会議・課内研修の定期開催	①ICT・DXをテーマとした法人内研修会の実施。外部研修への参加。他施設見学によりチームおよび個々の成長を目指す。 ②定期的に課内研修(総務課の仕事の目的・目標の共有、チームワークの向上、伝達研修など)を開催する。	継続	尾上	舟根
5	(4)	会計事務の適正処理	①経理規程に基づく、適正な事務処理。 ②会計処理の電子決裁・保存の推進。	継続	佐藤	舟根
6	(4)	経営分析と対策の検討・実施と補助金の活用、コスト改善	①定例の課内会議における月次の収支状況の確認・経営分析と対策の検討。 ②補助金の計画的な活用。 ③目標:全事業所事業活動収支差率10%(R6決算10.3%、R7決算見込 9.57%)、経費比率(事務費・事業費)26%以下(R6決算25.9%、R7決算見込 27.8%)。 ④固定費コスト改善(請求書電子化、購入物品の集約化、携帯電話の活用など)	継続	尾上	佐藤 舟根 小寫
7	(4)	災害対策・感染症対策の推進	①防災用品・備蓄品・災害機器の完備。 ②停電時における設備復旧マニュアルの整備と総務課職員誰もが対応できるようにする。	継続	小寫	山本
			③地域住民・行政等との連携による、実効性のある災害対策の組織を構築。 ④BCPに基づいた非常時の訓練を実施。	継続	尾上	山本

事業所名(部署)	特別養護老人ホーム 鷹栖さつき苑
----------	------------------

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) 根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。
- (2) ご入居者の生き活きたくらしづくりと、ご家族や地域とのつながりを大切にし、積極的に交流の機会をもつ。
- (3) 口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。
- (4) 新規採用職員(特に外国人)が定着し、地域とともに働きがいと魅力ある職場環境をつくる。
- (5) 業務の効率化を図るためDX・ICT化の推進と業務マニュアルの整備。新規採用職員(特に外国人)が定着し、地域とともに働きがいと魅力ある職場環境をつくる。
- (6) 適正利益の確保と安定した運営

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。	①多職種で排せつ、食事の関係をしっかりと把握し、褥瘡や体調不良を要因分析と対応を強化し、症状の重症化を予防に努める。(目標:排せつ加算、褥瘡マネジメント加算、口腔衛生管理加算を積算する) ②多職種によるカンファレンスを速やかに開催し根拠に基づいた要因分析と対応策をたてケアを実践。 (目標:年間入院日数200日以内) ③リハビリテーション、機能訓練、口腔ケア、栄養を一体的に行い、重度化の予防を行う。 ④重度化、緊急時対応のため、医療との連携を強め穏やかに活が最期まで生活が継続できるように努める。	継続	課長	主任
2	(2)	自立支援を視点におき、生き活きと暮らせる生活と環境を創る。	①担当スタッフが入居者個別に課題分析、計画の立案、目標に向けたケア(介護過程)を展開しQOL及びADLの向上を目指す。 ②アクティビティ(個別での外出、季節行事、レクリエーション活動、散歩など)を行い、スタッフも一緒に楽しめるイベントを計画的に実施する。 ③施設内環境の整理・整頓・清潔を徹底し、また季節感を感じられる潤いある環境をつくることで、ご利用者が安心して落ち着いて暮らせる環境をつくる。	継続	リーダー	主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(3)	安心して生活できる施設づくり。	①事故に対する危険予測の意識を高めるための研修会を開催するほか、ヒヤリハットと過去の事故事例をユニット会議内において継続的に周知し予防意識を啓発します。(目標:事故件数、前年度より、 10%減少 、骨折事故ゼロ、服薬に関する事故ゼロを目指す。) ②高齢者虐待や身体拘束予防の研修会の実施のほか、毎月のユニット会議において身体拘束(及び不適切なケア)を議題を 委員会 で検討し全職員で共有する。(目標:身体拘束と虐待及び不適切なケア 0件) ③医師及び感染症対策委員会と連携しながら、食中毒、ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウイルス等を予防する。 (目標:集団感染を防ぐ) ④ 認知症への理解と周辺症状対応力を向上する(認知症実践者研修受講1～2名) ⑤ 初回利用時にアンケートを実施し、快適な利用ができるようサービスの向上を図る。	新規・継続	主任	各スタッフ
4	(3)	口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。	① 健康を維持できる食事の提供を強化する。(便秘解消、免疫力強化、各既往症に適した食事)	継続	栄養士	主任
5	(3)	入居者の健康の維持・向上のための栄養ケアを実践する。	①毎月の体重の増減を確認し、改善策を都度リーダーに提案・実施。 ②食事量、水分量、排泄状況のケアを毎週行い、食を通したアプローチを提案・実施。 ③排泄困難者に対して、食を通して個々に合わせたアプローチする。 ④食事量低下時における対応を柔軟に行い、食事量を戻す取り組みを行う(補助食品の見直し、食形態の見直し、嗜好品の取り入れ) ⑤ 超高齢期、ターミナル期の食事のあり方を検討し、画一的ではなくその人に合わせた食事提供を行う。	継続 新規	栄養士	主任
6	(3)	給食委託業者との連携強化。	①衛生管理及び給食設備を定期的に確認し、食中毒の予防。 ②委託業者との情報交換、協力体制を密にするため、毎日のミーティングと月1回の給食運営会議を実施。 ③よりおいしい食事の提供をめざし、新たな食材の導入の検討と厨房の業務(調理行程など)の効率化。 ④委託契約額の適正化。	継続	栄養士	主任 課長
7	(5)	スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上。	①全職種、全職員を対象とした研修を継続実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性と実践力の向上を図る。 ②学んだ知識を日常のケアで実践できる力を付ける。	継続	課長	主任
8	(4)	ご家族や地域とのつながりを大切にし、積極的に交流の機会をもつ。	①家族と交流できる行事の再開。 ②家族・地域へ情報発信し、連携を高めていく。 ③ 面会時間の制限をなくし、居室での面会を再開する。	継続	各担当	リーダー
10	(5)	チームワークの向上と働きがいと魅力ある職場環境をつくり、 適切な人材の確保を目指す。	① 有給休暇(7連休)の計画的付与。 ② 各職員の役割を明確にし 、自ら考え、責任を持って行動する。互いのことを思いやり協力する職員集団となる。 ③実習生の積極的受入を図り、介護の魅力を伝えて行く。 ④外国人採用職員が職場に慣れ、職場や地域で楽しく生活できるように支援する。 ⑤技能実習生・外国人職員の介護能力と語学力向上を積極的に行う(介護福祉士合格)	継続 新規	課長	主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
11	(5)	業務の効率化を図るためDX・ICT化の推進と業務マニュアルの整備	<u>①生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。</u> <u>②新たなICT導入(見守り・生体センサー、カメラ、インカムの導入)・介護ロボットの導入及びノーリフトケアを導入・推進し、ケアの質向上と介護負担の軽減を更に図っていく。</u> ③現在担当となっている業務をマニュアル化し整理する。 ④記録のIT化によって生じた時間を有効に活用していく。 ⑤物品の配置と個数を整理し、整理整頓され効率性のある環境をつくる。	継続 新規	課長	主任
12	(7)	適正利益の確保と安定した運営。	①入院者数の減少、入退居の迅速な手続きにより空床を減らし稼働率の維持、向上を図る。(目標年間稼働率98%以上、入退居時の空床日数平均7日間以内) ②排泄ケア加算、 <u>褥瘡ケア加算(新規)</u> 、ターミナルケア加算、口腔衛生管理加算を評価、実践し取得する。 ③目標介護保険収入:238,834,000円 目標事業活動収支差額:23,883,000円	継続	課長	主任

事業所名(部署)

鷹栖町ショートステイ さつき苑

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) 根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。
- (2) ご入居者の活き活きたくらしづくりと、ご家族や地域とのつながりを大切に、積極的に交流の機会をもつ。
- (3) 口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供する。
- (4) 新規採用職員(特に外国人)が定着し、地域とともに働きがいと魅力ある職場環境をつくる。
- (5) 業務の効率化を図るためDX・ICT化の推進と業務マニュアルの整備。新規採用職員(特に外国人)が定着し、地域とともに働きがいと魅力ある職場環境をつくる。
- (6) 適正利益の確保と安定した運営

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	根拠に基づいたケアサービスの提供と、多職種協働でトータルケア(総合的視点による予防的ケア)を実践。	①ケアチェックと多職種協働によるトータルケアを実践し病気の重症化や再発を予防と業務の効率化を図る。 ②多職種で排せつ、食事の関係をしっかりと把握し、褥瘡や体調不良を要因分析と対応を強化し、症状の重症化を予防に努める。(目標:排せつ加算、褥瘡マネジメント加算、口腔衛生管理加算を積算する) ③多職種によるカンファレンスを速やかに開催し根拠に基づいた要因分析と対応策をたてケアを実践。 ④リハビリテーション、機能訓練、口腔ケア、栄養を一体的に行い、重度化の予防を行う。 ⑤重度化、緊急時対応のため、医療との連携を強め穏やかに活が最期まで生活が継続できるように努める。	継続	課長	主任
2	(2)	自立支援を視点におき、活き活きと暮らせる生活と環境を創る。	①在宅生活継続の課題を明確にし、短期入所の中で在宅生活を踏まえた自立支援を実践した行く。 ②デイサービスとの連携を図り、一部逆デイサービスを再開する。 ③長期利用者に対しても、積極的に在宅に戻れないかを検討し、家族を含めカンファレンスを実施していく。 ④医療連携を図りながら、終末期の受入も実践していく。 ⑤退院後、自宅に戻るまでの機能回復と生活不安を取り除くために評価する利用を受け入れる。	新規	リーダー	主任
3	(3)	口から食べ続けられることにこだわり、安全に、美味しく、楽しめる食事を提供。	①健康を維持できる食事の提供を強化する。(便秘解消、免疫力強化、各既往症に適した食事) ②本人、家族が自宅で健康管理できる食事、栄養の支援を行う。	新規・継続	栄養士	主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
4	(3)	利用者の健康の維持・向上のための栄養ケアを実践。	①体重の増減を確認し、改善策を都度リーダーに提案・実施。 ②食事量、水分量、排泄状況のケアを毎週行い、食を通してアプローチを提案・実施。 ③排泄困難者に対して、食を通して個々に合わせたアプローチする。 ④食事量低下時における対応を柔軟に行い、食事量を戻す取り組みを行う	継続	栄養士	主任
5	(4)	安心して生活できる施設づくり。	①事故に対する危険予測の意識を高めるための研修会を開催するほか、ヒヤリハットと過去の事故事例をユニット会議内において継続的に周知し予防意識を啓発します。(目標:事故件数、前年度より、 10%減少 、骨折事故ゼロ、服薬に関する事故ゼロを目指す。) ②高齢者虐待や身体拘束予防の研修会の実施のほか、毎月のユニット会議において身体拘束(及び不適切なケア)を議題を 委員会 で検討し全職員で共有する。(目標:身体拘束と虐待及び不適切なケア 0件) ③医師及び感染症対策委員会と連携しながら、食中毒、ノロウイルス、インフルエンザ、コロナウイルス等を予防する。 (目標:集団感染を防ぐ) ④認知症への理解と周辺症状対応力を向上する(認知症実践者研修受講1名) ⑤初回利用時にアンケートを実施し、快適な利用ができるようサービスの向上を図る。	新規・継続	主任	各スタッフ
6	(5)	スタッフ個々の基礎介護力と実践力の向上。	①全職種、全職員を対象とした研修を継続実施し、より実践的な知識、技術を身につけ専門性と実践力の向上を図る。 ②学んだ知識を日常のケアで実践できる力を付ける。	継続	課長	主任
7	(4)	チームワークの向上と働きがいと魅力ある職場環境をつくり、 適切な人材の確保を目指す。	①有給休暇(7連休または2回に分けて)の計画的付与を継続。 ②各職員の役割を明確にし、自ら考え、責任を持って行動する。互いのことを思いやり協力する職員集団となる。 ③実習生の積極的受入を図り、介護の魅力を伝えて行く。実習指導者研修の受講(1名) ④外国人採用職員が職場に慣れ、職場や地域で楽しく生活できるように支援する(法人企画B-proの参画2名)	継続	課長	主任
8	(5)	業務の効率化を図るためDX・ICT化の推進と業務マニュアルの整備	①生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。 ②新たなICT導入(見守り・生体センサー、カメラ、インカムの導入)・介護ロボットの導入及びノーリフトケアを導入・推進し、ケアの質向上と介護負担の軽減を更に図っていく。 ③現在担当となっている業務をマニュアル化し整理する。 ④記録のIT化によって生じた時間を有効に活用していく。 ⑤物品の配置と個数を整理し、整理整頓され効率性のある環境をつくる。	継続	課長	主任
9	(6)	適正利益の確保と安定した運営。	①新規利用者、ショートステイ利用の満足度を向上させ稼働率を向上する。また、安心してご利用いただくため、感染症予防対策を徹底する。(目標年間稼働率:92%) ②目標介護保険収入:36,713,000円 目標事業活動収支差額:3,671,000円	継続	課長	主任

事業所名(部署)	鷹栖町デイサービスセンター はぴねす
----------	--------------------

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) デイセンターが「ここからだが元気になる場」を合い言葉に、利用者が選択できる多種多様なサービスを役割・立場を超えて提供する。
- (2) 介護予防から中重度者へ「良いケア」が提供できる様に、職員の情報共有の場を設け早期発見、早期対応に努める。
- (3) 「良いケアをするために、良い職場をつくる」を合い言葉に、チーム一丸となり働きやすく・やりがいのある職場環境をつくります。
- (4) 「良い経営」を合い言葉に、適正利益の確保と無駄を省くことに努めます。

3. 事業所(係)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	魅力あるデイサービス 充実したアクティビティ	・整理整頓を徹底し、事業所内が清潔感があり、利用者と職員にとって心地よい居場所と空間を整える。	新規	沖	長谷川
			・デイ活動室(E型)の環境整備を行い、カフェルームでのイベントを開催する。	継続	レタシャ	岩井
			・行事レクリエーションと外出の機会を計画的に提供し、季節感や社会参加を通じて、利用者の生活意欲と満足度を高める。	継続	新井	岩井
			・創作活動を通じて感性を引き出し、達成感と楽しさを得られる製作レクリエーションを実施する。	継続	岩井	新井
2	(1)	自立支援・リハビリプログラムの構築	・マシントレーニングの記録、評価を行い適切な運動プログラムの提供。 ・心身機能の改善状況を可視化し、利用者へフィードバックを行うことで、運動への意欲向上を促す。	継続	大矢	大河原

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(1)	地域資源の活用	・地域のボランティアとの連携を図り、アクティビティプログラムを充実させる。	継続	古田	谷
			・地域の活動に積極的に利用者が関わる支援を行う。(老人会会合、子供体験教室、地域サロン活動への参加・訪問)	継続	吉田	谷
4	(2)	介護予防と重度化予防	・ほのぼののアラート機能を活用しケアチェックを行い、入院リスクの軽減、重度化に対応する。	新規	藤川	谷
			・認知症予防のための学習療法のサービス提供の強化を図る。	継続	古田	沖
			・利用者の口腔機能低下の早期発見、適切な管理指導を行い口腔機能の低下予防に取り組む。	継続	成田	近江
5	(2)	安心して利用できる デイサービスづくり	・健康リスクの高い方のカンファレンスを行う。 ・利用者の健康状態の把握を行う。 ・毎日の終了後ミーティングにて迅速な情報交換と対応を行い、健康管理の対応をおこなう。	継続	谷	藤川/大矢
			・感染症予防の研修を定期的に開催し、最新の感染予防・感染対応について学習する。	継続	藤川	近江
6	(2)	ケアスキル 接遇マナー向上	・研修・勉強会・接遇マナーに参加し、ケアスキルの向上、接遇マナーを身につける。	継続	谷	藤川
7	(3).(4)	職員の働きやすさ やりがいの向上と業務改善	・生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。 ・ICT機器・介護ロボットを導入・活用し、サービスの質向上と業務改善を図る。	新規	古田/大河原	藤川/大矢
			・介護過程を展開し、利用者の満足を職員のやりがいへとつなげる。	継続	谷	藤川
			・職員自身が活きいきと働けるよう、長期休暇(8連休 有給6休)を計画的に取得する。	継続	谷	藤川/大矢
8	(4)	適正収益の確保	・定期的に居宅・地域包括にデイ活動の周知宣伝を行い、「最低稼働率100%」を目指す。 ・適切な利益の確保し、健全な経営ができる様にする。 令和8年度 実利用者数150名/月 平均利用者数34.0名 介護保険収入89,585,000円 (R8当初予算) 令和7年度 実利用者数143名/月 平均利用者数30.9名 介護保険収入77,937,000円 (R7当初予算)	継続	谷	-

事業所名(部署)	介護センターさつき苑
----------	------------

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) 自身に必要な知識、技術を得るためにカンファレンスや研修での自己研鑽及びPDCAにより考える力を育む
- (2) 業務を見える化し効率よく業務ができる仕組みを創り生産性の向上を図る
- (3) 地域貢献活動の継続と活き活きはびねすプランの実施
- (4) 適正利益の確保と分析

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	医療情報、データから根拠に基づいたケアプランを作成する、	①医療情報(病歴・薬・血液データ・総合検診表)から最優先課題を抽出 ②バイタル・体重・生活状況をデータで把握、比較し改善するためのケアマネジメントを展開	変更	河田	林崎
	(1)	専門的知識と技術の向上	①ケアマネ会議にて研修(適切なケアマネジメント手法、災害対策、虐待防止、BCPシミュレーション、感染対策) ②外部研修を受講し最新の知識・技術を習得(地域共生型研修、居宅合同研修、在宅医療連携研修) ③介護支援専門員法令研修の受講と年2回自己点検用紙にて自主点検、個人目標設定及び評価を実施 ④ケアマネジャーの接遇及びケアマネジメントの満足度を把握するため、満足度調査を実施 ⑤地域共生型研修(年4回)、居宅合同研修(年1回)、在宅医療連携研修会(年1回)の参加	継続		
2	(2)	業務の基盤整備	①生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。 ②ICT研修の参加 ③ほのぼのNEXT伴走支援により効率化できる書式、業務の見直しを図る ④ハカルトの使用を踏まえ具体的な業務内容の見直し ⑤ケアプランデータ連携の活用推進 ⑥視察見学により業務改善を図る ⑦業務の統一化	新規	佐々木	佐藤

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(3)	地域への貢献	①地域住民に対する講話などにより貢献活動を実施(介護の入門的研修・認知症サポーターキャラバンメイト) ②ケアマネカフェの実施(1回/年)	継続	林崎	河田
4	(3)	「活き活きはびねすプラン」の策定とケアの提供	①利用者の笑顔や喜びを導き出すため、「活き活きはびねすプラン」を策定し、ケアマネジャー自身が外出支援を実施(1ケース以上)とブログアップ	継続	佐藤	佐々木
5	(4)	適正利益の確保と分析	①目標利用者人数(期初215名→期中220名→期末227名:年間平均利用者数220名) 目標:介護127 支援100 ②目標収益:31,180千円(前年度当初予算33,220千円) ③集中減算資料を年2回(3月～8月・9月～2月)作成 ④利用者動向分析	継続	佐々木	佐藤

事業所名(部署)	多機能型グループホーム鷹栖なごみの家
----------	--------------------

1. 基本方針 (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。 (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。 (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。 (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。 (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。 (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。 2. 重点目標 (1) 専門的な知識・技術を活かし 安全で根拠に基づく介護サービスを提供する (2) 自主性をもって介護過程を展開し利用者の満足度を高める (3) 職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる (4) 業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する
--

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	ケアの質の向上と安全で根拠に基づくサービスの提供	①ケアチェック、根拠に基づきカンファレンスを実施し、中重度化に対応したケアの提供。 ②アセスメントシートを100%ほのぼのシステムに移行し、定期更新(ケアプラン更新時)する。 ③安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ。 ④身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(委員会の開催、年2回研修実施)。	継続	①各スタッフ ②各スタッフ ③各スタッフ ④森	角谷 大倉
2	(1)	安全で美味しい食事の提供	①個別に合わせた適切な食事形態の提供。 ②食事量の低下者に対して速やかな栄養改善を図る。 ③3食365日完調品(クックデリ)を導入し食事量の安定・満足度向上を図る。	継続・新規	角谷 大倉	栄養士
3	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	①ケアチェックを強化し、病気の早期発見及び重症化や再発を防ぐ(目標総延べ入院日数30日)。 ②誤嚥性肺炎による入院者0名。	継続	角谷 大倉	森
4	(1)	食中毒・感染症の予防と非常災害時の対応	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める(集団感染0件)。 ②非常災害訓練を年2回以上実施。	継続	①各スタッフ ②秋保	①角谷/大倉 ②森

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
5	(1)	基礎介護力の向上	①基礎介護力向上研修を受講し、身につけた知識、技術を日常のケアで実践、指導できる力をつける。 ②外部研修の計画・実施。	継続	①大懸/四ツ家/小笠原 ②秋保	角谷 大倉
6	(2)	心身機能の維持向上を図る暮らしの充実	①利用者の課題を分析し、計画の立案、目標に向けたケアを展開しADL(QOL)の維持、向上を図る。 ②楽しみや喜びのあるアクティビティの計画・実施。	継続	①各スタッフ ②樫山/小林 田中/水澤	①角谷/大倉 ②伊藤/アデリ ア/ベルリアン
7	(3)	働きやすい職場づくり	①不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期に職員面談を実施する。 ②リフレッシュ休暇の取得と有給休暇の計画的消化。 ③退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す)。 ④超過勤務を削減するために、ICT、IOTを活用し改善を図る。(時間外勤務の10%削減)	継続	①角谷/大倉 ②秋保/森 ③秋保/森 ④大倉/谷口	森 秋保
8	(3)	チームワークの向上	①社訓(行動指針)を意識し月の目標を立て、各会議で評価する。 ②職員が楽しみ・やりがいを見つけ出し、達成感を感じられるよう一年間チームでの目標を決め取り組む(サービス向上発表会等での発表)。	継続	①各スタッフ ②角谷/大倉	森
9	(4)	業務の効率化	①業務の見直しを行い業務分担を明確にし見える化する。 ②超過勤務を削減するために、日中帯を1ユニットでケアする。 ③生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。	継続・新規	①②角谷/大倉 ③大倉	森 秋保
10	(4)	適正利益の確保	①ケアの質向上により入院者数を減少させ、目標稼働率98%を達成する(目標介護保険事業収入: 92,195,000円)。 ②光熱水費に対してのコスト意識を高め、節約に努める(前年度より使用量－3%)。	継続	角谷 大倉	森 秋保

事業所名(部署)	小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家
----------	------------------

1. 基本方針 (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。 (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。 (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。 (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。 (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。 (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。 2. 重点目標 (1) 知識・技術の専門性の向上を図り 安全で根拠に基づく介護サービスを提供する (2) 主体性をもって介護過程を展開し利用者の満足度を高める (3) 職員のチームワークが向上しやりがいと働きがいのある職場をつくる (4) 業務の標準化・見える化・効率化を図り、適正利益を確保する
--

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	ケアの質の向上と安全で根拠に基づくサービスの提供	①アセスメントシートを100%ほのぼのシステムに移行し、定期的な情報更新を行う ②ダブルチェック、ケースカンファレンスを定期的に行い統一したケアを実施する ③安全で予防的なケアに努め事故及び事故の再発を防ぐ ④身体拘束及び虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回研修実施) ⑤入院時の退院目標を病院・ご家族・職員で共有し実施する ⑥在宅復帰に向けた実行計画(ケアプラン)を作成し、ご家族・職員で共有し実施する	継続	松嶋	秋保
2	(1)	安全で美味しい楽しみのある食事の提供	①個別に合わせた適切な食事形態を提供する ②利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事・行事食を計画し実施する ③3食365日完調品(クックデリ)を導入し食事量の安定・満足度向上を図る。	継続・新規	已上栄養士	秋保
3	(1)	食中毒・感染症の予防	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める。(集団感染0件) ②非常災害訓練を年2回以上実施。	継続	① 松嶋 ② 看護師	秋保
4	(1)	疾病の管理と医療的ケアの充実	①ケアチェックを強化し、病気の発症及び重症化を防ぐ。早めの受診、医療と介護連携により、入院での利用休止を増やさない。受診対応のできない家族への支援強化。 ②在宅生活を継続できるよう、ケアマネジメントの強化(訪問サービスの提供で在宅での健康管理を強化し、介護者の介護力を見極め必要な支援・援助を行う) ③主治医・かかりつけ医との医療連携の強化を図る ④入院後は2週間ごとの状況確認(MSW・ご家族)を実施し、入院期間の短縮を図る	継続	① 看護師 ② 松嶋 ③ 松嶋 ④ 松嶋	秋保

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
5	(1)	基礎介護力の向上	①基礎介護力向上研修を受講し、身につけた知識、技術を日常のケアで実践、指導できる力をつける。 ②外部研修の計画・実施。	継続	①松嶋 津野 菅原 ②秋保	秋保
6	(2)	アクティビティの充実	①楽しみ・喜び・やりがいのある、そして年齢層に合わせたアクティビティを計画・実施する(団塊の世代のニーズに応えられるようタブレット、ゲーム等の準備) ②質の良い物づくりレクリエーションを毎月行う ③学習療法をより多くの方に参加していただくために、定期的に利用者・ご家族へPRをおこなう。定期的に学習診断を行い評価を行う。 ④地域住民との交流、外出行事の拡大(毎月1回実施)	継続	①菅原 ②菅原 ③津野 ④津野	篠川 前田
7	(2)	環境を改善し過ごしやすい生活環境を作る	①施設内の装飾品や植物を適切に管理し潤いある生活空間を作る	継続	菅原	星
8	(3)	働きやすい職場づくりチームワークの向上	①不安を取り除き、上司・部下が心を通い合わせるために、定期に職員面談を実施する ②リフレッシュ休暇の実施と有給休暇の計画的消化 ③退職者を減らし、安定した運営に取り組む(退職者0を目指す) ④「アクティビティの満足度評価を20%増加」するため、「リーダーの残業時間を30%削減」するためICT、IOTの活用を通じてケアの質向上及び職場環境の改善(介護負担軽減、業務効率化)を図る ⑤社訓(行動指針)を意識し月の目標を立て、各会議で評価する。 ③生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。	継続・新規	松嶋	秋保
11	(4)	適正利益の確保	①登録人数の維持(24名)、目標新規利用者10名確保のため、毎月1回医療機関へのPR・待機者の確認の実施(目標停止者5名) 訪問医療機関(日赤病院・圭泉会病院・森山メモリアル病院・大雪病院・リハビリテーション病院・旭川脳神経外科循環器内科病院・厚生病院・医療センターなど) ②目標介護保険事業収入69,447,000円(前期:66,652,000円) ③ダブルチェックの徹底と予防的なケアに努め、長期入院、施設入居を増やさない ④光熱費に対してのコスト意識を高め、節約に努める(前年度より-3%)	継続	松嶋	秋保

事業所名(部署)

地域密着型特別養護老人ホーム めくもりの家えん

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) 多職種共同で ケアを提供し、健康で豊かな暮らしをつくる。
- (2) 感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める。
- (3) 自主性・主体性を持って介護過程を展開し利用者の満足度を高める。
- (4) チームワークの向上とICTの活用を通じて職場環境の改善を図る。
- (5) 適正利益の確保。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	多職種が協同し、根拠に基づいたケアを提供する。	①病気の悪化を防ぎ、予防的なケアを実践する。また日々の健康管理を適切に行い、脱水症、低栄養を予防。 ②事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止。 ③褥瘡の予防、早期発見、発症時の適切なケアを実践。 ④褥瘡のアセスメント、モニタリングをケアプランと連動させて標準化する。 ⑤口腔の健康の保持を図るため、口腔衛生の管理を多職種協同で実践する。 ⑥便秘を予防し下剤を減らす取り組みを計画・実践し排泄ケアマネジメントを標準化する。	継続	谷水主任	佐久間 リーダー 藤矢 リーダー 己上栄養士
2	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供。	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供。 ②摂食障害者、ターミナル期の方への適切な食事形態や提示方法の提案、実践 ③治療食の提供に幅を設け、病気があっても楽しみのある食事を提供。 ④栄養ケアマネジメントを行い、年齢、病状、摂食状況、活動量を維持できる食事の提供を多職種協同で実施する。 ⑤低栄養状態のリスクが高い入所者に対し、多職種でミールラウンドを週3日以上実施し、栄養の改善に努める。	継続	己上栄養士	谷水主任
			⑥入居者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。 ⑦栄養士による季節感のある手作りおやつ提供(年2回実施) ⑧年1回嗜好調査を実施する。	継続	己上栄養士	谷水主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(1)	楽しみや喜びのある暮らしづくり。	①日々の生活の中にご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ年間レク計画をたて計画的に実施。 ②地域の方々やご家族と共に楽しむことのできる行事を実施。 ③外出行事を実施し外出の機会を増やす。	新規 継続	アクティビティ 向上委員長	アクティビティ 向上委員
			④共有スペースの整理整頓と潤いのある生活環境づくり。 ⑤環境委員会による定期的な環境チェックを実施し心地よい環境づくりと清潔・整理整頓の維持する。 ⑥職員の5S意識向上と継続的な環境改善への取り組み	継続/新規	環境改善 委員長	環境改善 委員
4	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり。	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス、ノロウィルス、インフルエンザ、食中毒等の感染予防に努める。	継続	谷水主任	己上栄養士
			②非常災害時における訓練と感染症対策訓練を計画・実施し予防意識の向上と万が一の事態に備える。	継続	松原課長	藤矢 リーダー
5	(3)	知識・技術の専門性を持ち、働きがいのある職場づくり。	①現任職員が目標を持ち、仕事にやりがいと充実感を持てるよう育成する。	継続	佐久間 リーダー	松原課長
			②介護過程の展開を担当者が行い、個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしをつくる。	継続	佐久間 リーダー	谷水主任
			③すべての職員が気持ち良い接遇を実践する。	継続	坂ロスタッ フ	小林スタッ フ
6	(4)	業務の効率化と働きやすい職場環境づくり。	①生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。 ②見守りセンサー・介護ロボット等の導入・活用により、介護の質向上と業務負担軽減を図る。 ②業務改善(ファイリング、仕事の見える化、オペレーションの随時見直し等)により安心して働ける職場環境をつくる。	継続	谷水主任	藤矢 リーダー
			⑤有給休暇とリフレッシュ休暇(8連休)のほか、3連休の取得を推進。	継続	松原課長	谷水主任

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
7	(5)	適正利益の確保。	①ケアの質向上により入院者を減少させ、目標稼働率(98%)を達成する。(目標介護保険事業収入: 112,918,000円) ②全職員がコスト意識を持ち、消耗品、光熱水費の節約に努める。特におむつに関しては実態を把握し、使用のルール徹底を図りコスト削減につなげる。(前年比使用量－3%)	継続	松原課長	谷水主任
			③空きベッドが生じないように(目標空床期間5日)、市内病院の相談室・老人保健施設と定期的に連絡をとり、待機者の獲得と円滑な新規入居につなげる ④給食費の予算に合わせた献立作成と無駄のない食材の仕入れの実施。完調品の使用による調理業務の見直し。	継続	相談員 己上栄養士	松原課長

事業所名(部署)	小規模多機能ホーム めくもりの家えん
----------	--------------------

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

2. 重点目標

- (1) 健康で豊かな生活を支えられるよう、多職種協働でケアを提供する。
- (2) 感染症や災害対策などの予防・防災意識を高める。
- (3) 利用者の地域での暮らしを支えるために、家族・地域住民とのつながりを強め、活かす。
- (4) 知識・技術の専門性を持ち、自主性・主体性を持って介護過程を展開し、利用者の満足度を高め、自ら働きがいのある職場をつくる。
- (5) チームワークの向上とICT活用を通じて、ケアの質の向上と職場環境の改善を目指す。
- (6) 適正利益の確保。

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1) (2) (4)	多職種協働を強化し、根拠に基づいたケアの提供につなげる。	①ダブルチェック(水分・必要栄養量の確認と把握、体重の増減確認)を徹底し、医療と介護の連携により、入院による停止者ゼロを目指す(R7 3件→ 1件)。 ②利用者の口腔機能低下を早期に確認し、適切な管理等を行うことで重度化予防につなげる(口腔栄養スクリーニング加算Ⅰ)。	継続	林リーダー 己上栄養士	小野看護師
			③事故発生時の検証を徹底し、同じ事故の再発を防止する(R7 17件(予測)→ 10件)。 特に薬に関する事故を前年度件数より -30%(R7 5件(予測) → 3件)。	継続	サム	リスクマネジメント委員会
			④身体拘束および高齢者虐待防止の取り組みを継続して行う(年2回の研修を実施)。	継続	佐藤主任	
			⑤入院時の状況把握を迅速に行い、担当医師や相談室との連携を密にとることで入院の長期化を防ぎ、必要最低限の期間での在宅復帰につなげる(入院後2週間に一度相談員・家族へ状況確認を実施)。	継続	佐藤主任	小野看護師
2	(2)	リスクマネジメントの強化と緊急時の体制づくり。	①感染症対策委員会と連携しながら、コロナウィルス・ノロウィルス・インフルエンザ・食中毒等の感染予防に努める(集団感染0件)。 ②感染症発生時の対応策の明確化と、職員への定期的な研修の実施。 ③避難訓練(日中・夜間想定)、非常災害想定訓練の実施(年2回)。	継続	佐藤主任	林リーダー 小野看護師 己上栄養士

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(1) (4)	安全で美味しく楽しい食事の提供。	①食中毒対策を厳守し、安全な食事を提供する。 ②栄養スクリーニングを行い、年齢・病状・家庭の状況をみて、摂食状況・活動量を維持できる食事の提供を多職種連携で実施する。 ③利用者の嗜好を取り入れた季節感のある食事や、行事食を計画・実施する。満足度調査による評価の実施(年1回)。	継続	己上栄養士	林リーダー 小野看護師
4	(1) (4)	平穏で楽しみや喜びのある暮らしづくり。	①日々の生活の中に、ご利用者と職員が共に喜びや楽しみが感じられる行事を取り入れ、思い出をつくる。 ②ご利用者・ご家族に成果の見えるアクティビティの実施。 ③月2回のコーヒー茶ろんでてく・エルダー体操に利用者が参加し、地域住民との交流の機会を持つ。	継続	高田	アクティビティ委員会
			③心身機能の向上にテーマを絞った介護過程の展開を担当者が計画的に行い、ADL・IADL向上に取り組む、実践で活かす。利用者個々の生活が穏やかで楽しみのある暮らしづくりをすすめる。 ④利用者全員のアセスメントを計画的に見直し、利用者個々の望む暮らしに結び付けたケアを提供する。	継続	林リーダー	サム
			⑤新規利用時を含め、定期的にご利用者・ご家族へ学習療法の効果などをPRし、学習療法利用者を増やす(R7 6名→8名)。すべての職員が学習療法実践士の資格を取得する。	継続	寒河江	高田
			⑥植物を適切に管理し、潤いのある生活環境をつくる(係・担当で実施)。 ⑦密を避けた心地よい空間作りと、清潔・整理整頓の維持(係・担当で実施)。	継続	寒河江	長井
5	(3)	家族・地域住民との連携・協働の推進。	①地域住民の学習療法サポーター活動を通して、役割と生きがいをつくる。また、サポーター間の意見交換や実施報告等の機会を設ける。	新規/継続	寒河江	佐藤主任
			③2ヶ月に1回の運営推進会議開催と、家族会・ぬくもり友の会・行政機関等の第三者からの意見や要望を取り入れた、健全で風通しの良い、地域に根づいた事業所運営を行う。	継続	佐藤主任	松原課長
			④地域との連携による緊急時(火災)の体制を整備し、災害時の対応について協力を得る。	継続	佐藤主任	松原課長

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
6	(5)	業務の効率化と働きやすい職場環境づくり。	①生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。	継続	林リーダー	佐藤主任
			②業務改善(仕事の見える化、ファイリング、オペレーションの随時見直し等)により、定時退勤できるなど安心して働ける職場環境をつくる。 ③有給休暇とリフレッシュ休暇(8連休)のほか、3連休の取得の推進。			
			④見守りセンサー・介護ロボット等の導入・活用により、介護の質向上と業務負担軽減を図る。	新規／継続	林リーダー	佐藤主任
			⑤計画的な外部研修への参加。	継続	佐藤主任	林リーダー
7	(6)	適正利益の確保。	①利用者目標人数23.0名(R7 23.0名)。(目標介護保険事業収入 69,876,000円) ②地域包括ケア病棟・老人保健施設の相談室を訪問し、待機者の獲得及び新規利用につなげる。待機者リストを作成し、登録に空きが出た際は速やかに利用に結びつける体制を整える。 ③毎月の地域ケア会議へ出席し、役場・地域包括支援センター・法人居宅事業所に対し、登録の空き状況や待機状況の情報共有を行う。 <u>泊まりの空室状況をリアルタイムで共有する。</u>	新規／継続	佐藤主任	

事業所名(部署)	サービス付き高齢者向け住宅 めくもりの家たかほ
----------	-------------------------

1. 基本方針 (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。 (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。 (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。 (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。 (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。 (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。 2. 重点目標 (1) 自分の持てる力を活用して、安心して自分らしい生活を継続できるよう支援する (2) 社会参加・社会交流の機会を通して、地域で暮らす楽しみとつながりを感じることができるよう支援する (3) 住み慣れた地域での生活が継続できるよう、住民と共に支えるネットワークをつくり、地域貢献する (4) 効率よく業務が出来る仕組みづくり、生産性向上を図る (5) 適正利益の確保

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	生活支援ならびに状況把握サービスの提供	①入居者一人ひとりに必要なサービス(介護保険サービス・有料サービス・地域資源など)を見極め、入居者・家族への提案や相談、関係各所との連携を速やかに行う ②入居者・家族同士と職員が相互に意見を交換できる機会を設ける(年1回家族懇談会の計画・開催)	継続	能登	
2	(1)	入居者の健康管理	①アセスメントを徹底し、既往歴や現病歴から起こりうるリスクを念頭に置いて日々の体調確認を行う ②受診・入院へと繋がりうる体調不良に対して早期に対処できるよう、水分摂取量の把握と摂取機会をつくる ③受診や服薬状況などを把握し、必要に応じて主治医や訪問看護との連携を図る ④ライフリズムナビ(生体・眠りセンサー、見守りカメラ等)の利活用し、入居者の状況把握と必要な支援及び業務効率化を図る	継続 新規	能登	藤原
3	(1)	安全で美味しく楽しい食事の提供	①食中毒予防対策を厳守し、安全な食事を提供する ②入居者の摂食状況を確認し、変化に迅速に対応する ③入居者の嗜好を取り入れた季節感のある食事、行事食の計画・実施。満足度調査による評価の実施 ④栄養士による季節感のある手作りおやつ提供(年2回)	継続	栄養士	能登
4	(1)	心身機能の維持向上と日常生活の活性化	①併設のフィットネス倶楽部の利用啓発 ②昼食前に嚥下体操や転倒予防体操を行うことで機能維持を図る	継続	能登	藤原

3. 事業所(課)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
5	(1)	安全で過ごしやすい環境づくり	①居室内の環境を専門職(PT・Ns・ケアマネジャー等関連事業者)で評価し、安全な環境整備を図る	継続	能登	
6	(1)	専門的知識の向上	①夜間当直員・生活支援員を対象に研修(緊急時対応研修(年2回)・マナー接遇と自立支援・認知症研修・虐待研修)を実施し、知識・技術の習得 ②法人内研修(基礎介護力向上研修)に参加し、知識・技術の習得 ③給食会議の開催により、調理員の情報共有と技術力向上を目指す(年3回)	継続	能登	
7	(3)	地域への貢献	①昼食を地域住民に1日5食限定(R7実績1日2食)で提供し、外出機会・他者との交流機会をつくる ②地域住民の学習療法サポーターによる、たかほでの学習療法にて、役割と生きがいをつくる	継続	能登	藤原
			③高齢者に対する低栄養の改善・社会的孤立感の解消・アクティブシニアに対する生涯活躍の機会の提供のため、月に1回法人による地域食堂を実施する ④地域における介護予防の取り組みを促進するために、年6回栄養士による料理教室を実施する	継続	栄養士	能登
8	(2)	役割のある暮らしの支援	①入居者の喜びや楽しみにつながるレクリエーションや行事を計画し、地域の協力を得ながら実施する。社会福祉協議会のほっとカフェでの就労機会、ぬくもりの家えん朝市での創作物の販売を通して、働くことの喜びを感じる	継続	能登	藤原
9	(4)	生産性向上の推進を図る	①生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。 ②ほのぼのシステム活用により業務の効率化 ③ライフリズムナビを導入し、訪室業務の最適化を図る ④ライフリズムナビのデーターを活用し、入居者の状態把握と健康リスクの早期発見・早期対応を図る ⑤管理者の業務の最適化を図る。	新規	能登	藤原
10	(5)	適正利益の確保	①満室18名を達成・維持する(R7年度 平均17.3戸、平均実績稼働率98.6%) 目標稼働率97%(17.5戸)、目標事業収益 27,417,000円(前期:27,0003,000円) ②鷹栖町内・旭川市内・上川管内の地域包括支援センターに空室情報提供を行い、待機者獲得につなげる(年5回) ③広報やブログを通して、魅力を感じてもらえる情報の発信を積極的に行う ④全職員がコスト意識を持ち、消耗品費や光熱費、暖房費の節約に努める ⑤給食費の予算に合わせた献立作成と無駄のない食材の仕入れの実施	継続	能登	

事業所名(部署)	鷹栖町ヘルパーステーションさつき苑
----------	-------------------

1. 基本方針

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。’

2. 重点目標

- (1) 根拠に基づく介護サービスを確実に提供するための基盤を整備する。
- (2) 地域と家族の力を活かした事業所運営の基盤を整備する。
- (3) 職業倫理を遵守し、自立支援を念頭においた介護サービスを提供する。
- (4) 自己課題の克服とチーム力の向上を目指し研修プログラムの充実を図る。
- (5) サービスの質向上と職場環境(介護負担の軽減、業務効率化)の改善を図る。
- (6) 適正利益の確保

3. 事業所(係)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	サービスの内容及び提供方法の標準化	①ヘルパー会議で支援の困難な利用者についてカンファレンスを行い、サービス提供方法の詳細について意見交換し標準化を図る。	継続	米澤	伊藤
			②毎月の会議内で介助・支援方法について、具体的に伝え学ぶことで安全で安心できる技術を習得する。	継続	米澤	伊藤
2	(2)	地域・家族との関係強化の取り組み	①茶話会を継続して行い、職員自身が地域を知り、学び地域住民の潜在しているニーズを把握する。(鷹栖町3か所・旭川市1か所での開催)	継続	米澤	伊藤 深瀬 藤木
3	(2)	利用者・家族と職員との交流促進	①長寿を迎えられる利用者を対象に、自宅を訪問しお祝いを伝える。	継続	米澤	小笠原 鈴木
			②外出する機会を得て、他者との交流や生活に楽しみを持てるような働きかけを行う。	継続	深瀬	伊藤 藤木
			③利用者とヘルパーの交流会を行い、互いの信頼関係の構築を図る。	新規	伊藤	高橋 佐々木

3. 事業所(係)における取組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
3	(3)	職業倫理を遵守する取り組み	①身体・精神的虐待ゼロを誓い、適切な接遇態度を身につけ安全確保に徹したサービスを提供する。	継続	米澤	藤木
4	(4)	専門性と介護技術の向上	①計画的に外部研修に参加し、知識・技術の習得を図る。	継続	米澤	深瀬
			②ヘルパー研修を通し、各自が講師を行うことで知識と技術の習得を図る。	継続	藤木	伊藤
5	(5)	サービス評価と自己研鑽の取り組み	①利用者満足度調査を実施し、広報「さつき」で情報公表する。	継続	藤木	伊藤
6	(5)	職場環境の改善	①職員全員が計画的にリフレッシュ休暇9日間を取得し、仕事に対するモチベーションアップを図り働きやすい職場を作る。	継続	米澤	深瀬
			②正月休みを12月31日～翌年1月3日までと改定し休業日を設ける。	新規	米澤	深瀬
7	(5)	生産性向上の推進	①生産性向上委員会を常設し、PDCAサイクルに基づき、現場課題の見える化、改善計画の策定・実行・評価を通じた継続的な改善活動を推進し、成果を生む委員会活動を実践する。	新規	米澤	深瀬
			②システムを利用し情報共有でケアの質向上を図り、年間の停止者を20人以下にする。	新規	米澤	深瀬
			③ほのぼの伴走支援を活用し日誌やモニタリング作成にかかる転記作業を効率化し残業時間を10%削減できる。	新規	米澤	深瀬
			④システムでの介護計画書、訪問表の作成を取り入れデスクワークにかかる時間外勤務を20%削減する。	新規	米澤	深瀬
8	(6)	利用者獲得のための営業・広報活動を強化する	①月実人数85人(R7, 85人)新規利用者25人(R7, 23人)月間述べ訪問回数 830回 (R7, 830回)を目標に掲げ毎月実績確認を行い、その都度収益増減の原因を明らかにする。	継続	米澤	伊藤
		適正利益の確保	①目標介護保険収益を39,644,000円(R7前年度37,524,000円)月間訪問回数830回に掲げ、加算取得・茶話会活動を展開する。目標達成に向け、会議で実績報告を行いサービスの不足している状況がないか確認をする。	継続	米澤	深瀬

事業所名(部署)

地域介護予防活動支援事業 ・ 地域リハビリテーション活動支援事業 ・ 介護予防普及啓発支援事業
在宅医療・介護連携推進事業 ・ 法人自主事業

1. 基本方針

基本方針(さつき会)

- (1) 次世代の経営を担う人材を育成する。
- (2) すべての施設・部署でDX・ICT・介護ロボットを導入・活用し、生産性とケアの質を向上させる。
- (3) 職員一人ひとりが主体的に行動し、活躍する土壌をつくる。
- (4) 地域課題を発掘し、新たな事業の創出と事業の多角化多機能化を図る。
- (5) 施設の大規模修繕・リノベーションを行い、居住環境とケアの質の向上及び職員の働きやすさ・働きがいの向上を図る。
- (6) 安定した経営基盤の確立と持続的な成長を図る。

総合事業 基本目標(鷹栖町)

「高齢者が生涯活躍し、助け合い・支えあいによるお互いさまのまちづくり」

2. 重点目標

- (1) 住民が主体となって参加し、住民が住民を支える仕組みを作り、地域に根差した「楽しい」介護予防活動を推進
- (2) 地域における介護予防の取り組みの強化を図る
- (3) 医学的根拠に基づいた運動指導等を実施する
- (4) 町内の医療・介護関係者の顔の見える関係づくりを行い、在宅医療・介護の情報共有、連携を推進する
- (5) 地域貢献として、多くの住民のヘルスリテラシーを高め、社会参加を促すよう教育・啓蒙活動を実施する

3. 事業所における取り組み

No.	重点目標との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
1	(1)	① あったかすリハビリ体操の普及・住民主体の通いの場の立ち上げ支援 ② あったかすリハビリ体操指導士の活動支援 ③ あったかすリハビリ体操指導士の活動意欲促進 ④ あったかすリハビリ体操指導士の養成 ⑤ サーキットトレーニングの運営 ⑥ 利用促進のためのイベント開催 ⑦ 新規利用者への広報活動 ⑧ 取り組みの啓発活動 (地域介護予防活動支援事業)	① 体操指導士による住民主体のあったかすリハビリ体操教室を月12団体運営する(R7年度平均10.4団体/月) ② 住民主体の通いの場の活動支援(月1回) ③ 体操指導士のための定期的なミーティングや復習会を2ヶ月に1回開催する ④ あったかすリハビリ体操指導士養成講座を開催し、新規体操指導士を10名養成する(R7年度9名) ⑤ 月実利用人数105名を目標に、サーキットトレーニングでの運動指導を行う(R7年度平均103名/月) ⑥ 無料体験会等のイベントを年1回開催し、3名の新規利用・利用再開につなげる ⑦ 鷹栖町と協働して、介護保険証交付時にコレカラ利用促進のための広報活動を月1回実施する ⑧ 道新ボランティア奨励賞への応募(新規)	新規／継続	大河原	大矢

No.	重点目標 との連動	取組み事項	取組み内容	新規／継続	担当者	
					主査	補佐
2	(2)	① 身体機能評価の実施 ② 包括支援センターからの相談対応 ③ 通いの場における介護予防活動 ④ 町の特定健診での身体機能評価 ⑤ フレイル対策 (地域リハビリテーション活動支援事業)	① 月2名を目標に、コレカラ新規利用者に身体機能評価を実施し、適切な運動内容を指導する(R7年度平均1.1名/月) ② 月3件を目標に、地域包括支援センターや居宅介護支援センター、各事業所からの相談対応を行う(R7年度平均1.1件/月) ③ 年10団体を目標に、通いの場に出向き、体力測定会や健康講話の実施(R7年3団体) ④ 町の特定健診においてフレイルチェックを15名に実施する(R7年度1回実施) ⑤ 多職種協同でフレイル教室を開催し、10名に対して個別的にフレイル対策を実施する	継続	大河原	大矢
3	(3)	① レッドコード教室の運営 ② コレカラサポーターの活動支援 ③ 毎日運動プロジェクトの実施 ④ 業務の効率化・標準化の推進 (介護予防普及啓発支援事業)	① 月実利用人数70名を目標に、レッドコード教室での運動指導を行う(R7年度平均70.7名) ② コレカラサポーター復習会、養成講座をそれぞれ年1回開催し、3名のサポーターを新規養成・活動再開につなげる(R7年度4名) ③ 運動習慣化に向けて、年1回公式LINEにて運動プログラムを配信する ④ 各事業の業務マニュアルを整備し、業務の属人化を解消する(新規)	新規／継続	大河原	大矢
4	(4)	① 住民への在宅医療・介護連携に関する知識の啓蒙 ② 在宅医療・介護関係者の連携推進 (在宅医療・介護連携推進事業)	① 住民向け啓蒙活動を5団体で開催する(新規) ② 医療・介護職向け研修会や情報交換の場を年1回開催する(R7年度1回開催)	新規／継続	大河原	大矢
5	(5)	① 介護予防に関する基本的知識の普及啓発 ② 互助活動の推進 ③ 社会参加の推進 ④ 公式LINEアカウントの運用 (法人自主事業)	① 月5団体の通いの場において、多職種協働でヘルスリテラシー講座の開催する ② ボランティア交流会を年1回、ボランティアによる大掃除を年2回実施する(R7年度大掃除2回実施、それぞれ19名、18名参加) ③ 社会参加を推進する外出イベントや多世代交流のイベントを開催する ④ 登録者200名を目標に、コレカラの公式LINEアカウントを運用する(R7年度188名)	継続	大河原	大矢

令和8年度 行事・研修予定表

[illegible]

令和8年度 行事・研修予定表

[illegible]

令和 8 年度
(第 53 期)
資金収支予算書

作成日：令和 8 年 3 月 21 日

自 令和 8 年 4 月 1 日
至 令和 9 年 3 月 31 日

社会福祉法人 さつき会

○ 令和 8 年度当初予算編成のポイント

- 1 事業活動収入計 829,221 千円（前年当初予算比+33,876 千円）**
(ア) 介護保険収入額 782,997 千円（前年比+33,390 千円）
積算根拠 () 内の数値は R7 年度実績見込
① 特養ホーム鷹栖さつき苑（定員 50 名） ……稼働率 96%（97.9%）
② ショートステイ（定員 10 名） ……稼働率 87%（92.6%）
③ デイセンター（定員 30 名） ……1 日の平均利用者数 32 名（34.1 名）
④ 介護センター（ケアマネ 5 名） ……1 か月の平均利用者 220 名（220 名）
⑤ グループホーム（定員 18 名） ……稼働率 97%（99.5%）
⑥ 小規模なごみの家（定員 25 名） ……1 か月の平均利用者 22.0 名（22.1 名）
⑦ 特養ホームぬくもりの家えん（定員 20 名） …稼働率 97%（98.8%）
⑧ 小規模ぬくもりの家えん（定員 25 名） …1 か月の平均利用者 23.0 名（18.9 名）
⑨ サ高住ぬくもりの家たかほ（定員 18 名） 1 か月の平均入居者 17.5 名（17.3 名）
⑩ ヘルパーステーション（ヘルパー 11 名） …1 か月の平均訪問件数 830 件（923）
(イ) 介護職員等処遇改善加算収入 91,247 千円（前年比+15,826 千円）
(ウ) 鷹栖町総合事業関係（地域リハ、生活支援コーディネーター等） 22,208 千円
- 2 事業活動支出計 762,105 千円（前年当初予算比+26,041 千円）**
(ア) 総人件費 524,315 千円（前年比+17,390 千円）
(イ) 人件費内容
① 正職員定期昇給・昇格昇給増加分 5,479 千円
（正職員ベースアップ 2,000 円+基準昇給率 1.35%、1 人平均+3,954 円）
(ウ) 総人件費率 63.2%（前年比-0.5%）
(エ) 時間外手当 6,470 千円（前年比+6 千円）
(オ) 業務委託に係る人件費（給食、清掃、洗濯等） 28,782 千円
(カ) 総人件費+業務委託に係る人件費 553,097 千円（総人件費率 66.7%）
(キ) 介護職員処遇改善関連手当 20,185 千円
(ク) 事業費 126,168 千円（前年比+9,511 千円/経費率 15.2%）
(ケ) 事務費 106,427 千円（前年比-2,023 千円/経費率 12.8%）
(コ) 利用者負担軽減額 3,069 千円（前年比+1,166 千円）
(サ) 建物・設備の修繕費 5,014 千円（前年比+69 千円）
- 3 事業活動収支差額合計 67,116 千円（前年当初予算比+7,835 千円/収支差率 8.1%）**
- 4 施設整備等による収入計 27,861 千円（前年当初予算比+27,861 千円）**
- 5 施設整備等による支出計 66,529 千円（前年当初予算比+35,863 千円）**
(ア) 法人本部：Web 請求書発行システム（ほのぼのつながる家族） 500 千円
(イ) さつき苑：見守りセンサー・カメラ、ナースコール、車椅子他 34,183 千円
(ウ) デイセンター：車輜、スマートホン、ほのぼのつながる家族他 3,526 千円
(エ) なごみの家：洗濯機、温蔵カート、エアコン他 7,872 千円
(オ) ぬくもりの家えん：借入金元金償還金、車椅子体重計、電子錠他 13,665 千円
(カ) ぬくもりの家たかほ：車輜、ほのぼのつながる家族 1,658 千円
(キ) 鷹栖さつき苑大規模修繕・リノベーション設計業務・コンサルティング業務委託費 5,125 千円
- 6 施設整備等積立資産取崩収入計 0 千円（前年当初予算比-8,786 千円）**
- 7 当期資金収支差額合計 20,127 千円（前年当初予算比-9,362 千円）**

資金収支予算書(当初予算)

(自)令和 8年 4月 1日(至)令和 9年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)
事業活動による収支	収入			
	介護保険事業収入	782,997,000	766,038,000	16,959,000
	老人福祉事業収入	27,686,000	27,604,000	82,000
	その他事業収入	16,067,000	14,404,000	1,663,000
	本部人件費収入		0	0
	経常経費寄付金収入	100,000	130,000	△30,000
	受取利息配当金収入		445,000	△445,000
	その他の収入	2,371,000	7,842,000	△5,471,000
	事業活動収入計(1)	829,221,000	816,463,000	12,758,000
	支出			
事業活動による収支	人件費支出	524,315,000	496,441,000	27,874,000
	事業費支出	126,168,000	112,662,000	13,506,000
	事務費支出	106,427,000	115,280,000	△8,853,000
	利用者負担軽減額	3,069,000	2,766,000	303,000
	支払利息支出	435,000	585,000	△150,000
	その他の支出	1,691,000	2,032,000	△341,000
	事業活動支出計(2)	762,105,000	729,766,000	32,339,000
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	67,116,000	86,697,000	△19,581,000
施設整備等による収支	収入			
	施設整備等補助金収入	27,861,000		27,861,000
	その他の施設整備等による収入		280,000	△280,000
	施設整備等収入計(4)	27,861,000	280,000	27,581,000
	支出			
	設備資金借入金元金償還支出	8,770,000	8,770,000	0
	固定資産取得支出	57,759,000	17,074,000	40,685,000
施設整備等による収支	その他の施設整備等による支出		280,000	△280,000
	施設整備等支出計(5)	66,529,000	26,124,000	40,405,000
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△38,668,000	△25,844,000	△12,824,000
その他の活動による収支	収入			
	積立資産取崩収入	900,000	220,969,000	△220,069,000
	拠点区分間繰入金収入	0	0	0
	その他の活動による収入		1,417,000	△1,417,000
	その他の活動収入計(7)	900,000	222,386,000	△221,486,000
	支出			
	投資有価証券取得支出		200,019,000	△200,019,000
	積立資産支出	9,221,000	23,315,000	△14,094,000
	拠点区分間繰入金支出	0	0	0
	その他の活動支出計(8)	9,221,000	223,334,000	△214,113,000
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△8,321,000	△948,000	△7,373,000
予備費支出(10)				
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)		20,127,000	59,905,000	△39,778,000
前期末支払資金残高(12)		410,380,000	350,475,000	59,905,000
当期末支払資金残高(11)+(12)		430,507,000	410,380,000	20,127,000

事業活動予算書(当初予算)

(自)令和 8年 4月 1日(至)令和 9年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	介護保険事業収益	782,997,000	766,038,000	16,959,000
	老人福祉事業収益	27,686,000	27,604,000	82,000
	その他の事業収益	16,067,000	14,404,000	1,663,000
	経常経費寄付金収益	100,000	130,000	△30,000
	サービス活動収益計(1)	826,850,000	808,176,000	18,674,000
	費用			
サービス活動増減の部	人件費	524,315,000	496,441,000	27,874,000
	事業費	126,168,000	112,690,000	13,478,000
	事務費	106,427,000	115,280,000	△8,853,000
	利用者負担軽減額	3,069,000	2,766,000	303,000
	サービス活動費用計(2)	759,979,000	727,177,000	32,802,000
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	66,871,000	80,999,000	△14,128,000
サービス活動外増減の部	収益			
	受取利息配当金収益		445,000	△445,000
	その他のサービス活動外収益	2,371,000	7,842,000	△5,471,000
	サービス活動外収益計(4)	2,371,000	8,287,000	△5,916,000
	費用			
	支払利息	435,000	585,000	△150,000
	その他のサービス活動外費用	1,691,000	1,432,000	259,000
サービス活動外増減の部	サービス活動外費用計(5)	2,126,000	2,017,000	109,000
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	245,000	6,270,000	△6,025,000
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	67,116,000	87,269,000	△20,153,000
特別増減の部	収益			
	施設整備等補助金収益	27,861,000		27,861,000
	その他の特別収益		1,417,000	△1,417,000
	特別収益計(8)	27,861,000	1,417,000	26,444,000
	費用			
	特別費用計(9)	0	0	0
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	27,861,000	1,417,000	26,444,000
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)		94,977,000	88,686,000	6,291,000
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	513,980,000	425,294,000	88,686,000
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	608,957,000	513,980,000	94,977,000
	基本金取崩額(14)			
	その他の積立金取崩額(15)			
	その他の積立金積立額(16)			
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	608,957,000	513,980,000	94,977,000

令和8年度当初予算概況

1. 法人全体

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	829,221	795,345	33,876			
その他の収入	28,761	9,786	18,975			
収入計	857,982	805,131	52,851			
事業活動支出	762,105	736,064	26,041		前年度	
人件費	524,315	506,925	17,390	63.2%	63.7%	
事業費	126,168	116,657	9,511	15.2%	14.7%	
事務費	106,427	108,450	-2,023	12.8%	13.6%	
その他の支出	75,750	39,578	36,172		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	837,855	775,642	62,213			
事業活動収支差額	67,116	59,281	7,835	8.1%	82,922	-15,806
当期資金収支差額	20,127	29,489	-9,362			

※人件費率に、調理業務・清掃業務等の委託に関わる人件費は含まない

2. 本部

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	6,257	7,005	-748			
その他の収入	18,150	24,658	-6,508			
収入計	24,407	31,663	-7,256			
事業活動支出	24,610	22,859	1,751		前年度	
人件費	13,493	11,615	1,878	215.6%	165.8%	
事業費	0	0	0	0.0%	0.0%	
事務費	11,117	11,244	-127	177.7%	160.5%	
その他の支出	6,096	9,675	-3,579		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	30,706	32,534	-1,828			
事業活動収支差額	-18,353	-15,854	-2,499	-293.3%	626	-18,979
当期資金収支差額	-6,299	-871	-5,428			

令和8年度当初予算概況

3. 特別養護老人ホーム鷹栖さつき苑

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	240,475	233,570	6,905			
その他の収入	25,126	500	24,626			
収入計	265,601	234,070	31,531			
事業活動支出	221,722	210,531	11,191		前年度	
人件費	132,451	124,002	8,449	55.1%	53.1%	
事業費	45,288	42,471	2,817	18.8%	18.2%	
事務費	42,026	42,659	-633	17.5%	18.3%	
その他の支出	42,334	11,179	31,155		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	264,056	221,710	42,346			
事業活動収支差額	18,753	23,039	-4,286	7.8%	24,048	-5,295
当期資金収支差額	1,545	12,360	-10,815			

4. ショートステイさつき苑

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	36,762	32,462	4,300			
その他の収入	200	0	200			
収入計	36,962	32,462	4,500			
事業活動支出	33,996	30,849	3,147		前年度	
人件費	22,148	19,541	2,607	60.2%	60.2%	
事業費	5,705	5,246	459	15.5%	16.2%	
事務費	5,698	5,828	-130	15.5%	18.0%	
その他の支出	958	944	14		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	34,954	31,793	3,161			
事業活動収支差額	2,766	1,613	1,153	7.5%	3,676	-910
当期資金収支差額	2,008	669	1,339			

【鷹栖さつき苑拠点合計】

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	277,237	266,032	11,205			
その他の収入	25,326	500	24,826			
収入計	302,563	266,532	36,031			
事業活動支出	255,718	241,380	14,338		前年度	
人件費	154,599	143,543	11,056	55.8%	54.0%	
事業費	50,993	47,717	3,276	18.4%	17.9%	
事務費	47,724	48,487	-763	17.2%	18.2%	
その他の支出	43,292	12,123	34,316		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	299,010	253,503	43,499			
事業活動収支差額	21,519	24,652	-3,133	7.8%	27,724	-6,205
当期資金収支差額	3,553	13,029	-9,476			

令和8年度当初予算概況

5. デイサービスセンターはぴねす

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	89,608	77,960	11,648			
その他の収入	0	0	0			
収入計	89,608	77,960	11,648			
事業活動支出	71,203	63,235	7,968		前年度	
人件費	50,024	43,390	6,634	55.8%	55.7%	
事業費	7,346	6,067	1,279	8.2%	7.8%	
事務費	13,274	13,338	-64	14.8%	17.1%	
その他の支出	10,503	9,694	809		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	81,706	72,929	8,777			
事業活動収支差額	18,405	14,725	3,680	20.5%	8,961	9,444
当期資金収支差額	7,902	5,031	2,871			

6. 介護センターさつき苑

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	31,020	32,861	-1,841			
その他の収入	0	0	0			
収入計	31,020	32,861	-1,841			
事業活動支出	27,233	31,374	-4,141		前年度	
人件費	23,774	27,952	-4,178	76.6%	85.1%	
事業費	408	481	-73	1.3%	1.5%	
事務費	3,051	2,918	133	9.8%	8.9%	
その他の支出	1,710	528	1,182		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	28,943	31,902	-2,959			
事業活動収支差額	3,787	1,487	2,300	12.2%	3,102	685
当期資金収支差額	2,077	959	1,118			

【在宅支援拠点合計】

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	120,628	110,821	9,807			
その他の収入	0	0	0			
収入計	120,628	110,821	9,807			
事業活動支出	98,436	94,609	3,827		前年度	
人件費	73,798	71,342	2,456	61.2%	64.4%	
事業費	7,754	6,548	1,206	6.4%	5.9%	
事務費	16,325	16,256	69	13.5%	14.7%	
その他の支出	12,213	10,222	-2,150		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	110,649	104,831	11,077			
事業活動収支差額	22,192	16,212	5,980	18.4%	12,063	10,129
当期資金収支差額	9,979	5,990	3,989			

令和8年度当初予算概況

7. 多機能型グループホーム鷹栖なごみの家

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	92,270	89,529	2,741			
その他の収入	981	250	731			
収入計	93,251	89,779	3,472			
事業活動支出	91,579	85,109	6,470		前年度	
人件費	67,068	61,686	5,382	72.7%	68.9%	
事業費	17,606	16,750	856	19.1%	18.7%	
事務費	6,862	6,625	237	7.4%	7.4%	
その他の支出	6,573	4,051	2,522		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	98,152	89,160	8,992			
事業活動収支差額	691	4,420	-3,729	0.7%	9,227	-8,536
当期資金収支差額	-4,901	619	-5,520			

8. 小規模多機能ホーム鷹栖なごみの家

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	69,363	66,652	2,711			
その他の収入	0	0	0			
収入計	69,363	66,652	2,711			
事業活動支出	55,503	63,358	-7,855		前年度	
人件費	43,101	51,051	-7,950	62.1%	76.6%	
事業費	8,426	7,463	963	12.1%	11.2%	
事務費	3,691	4,774	-1,083	5.3%	7.2%	
その他の支出	3,798	1,553	2,245		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	59,301	64,911	-5,610			
事業活動収支差額	13,860	3,294	10,566	20.0%	6,936	6,924
当期資金収支差額	10,062	1,741	8,321			

【鷹栖なごみの家拠点合計】

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	161,633	156,181	5,452			
その他の収入	981	250	731			
収入計	162,614	156,431	6,183			
事業活動支出	147,082	148,467	-1,385		前年度	
人件費	110,169	112,737	-2,568	68.2%	72.2%	
事業費	26,032	24,213	1,819	16.1%	15.5%	
事務費	10,553	11,399	-846	6.5%	7.3%	
その他の支出	10,371	5,604	-3,088		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	157,453	154,071	19,558			
事業活動収支差額	14,551	7,714	6,837	9.0%	16,163	-1,612
当期資金収支差額	5,161	2,360	2,801			

令和8年度当初予算概況

9. 地域密着型特別養護老人ホームぬくもりの家えん

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	112,985	108,219	4,766			
その他の収入	2,254	250	2,004			
収入計	115,239	108,469	6,770			
事業活動支出	100,947	98,958	1,989		前年度	
人件費	73,388	73,302	86	65.0%	67.7%	
事業費	20,556	17,725	2,831	18.2%	16.4%	
事務費	6,130	7,080	-950	5.4%	6.5%	
その他の支出	12,239	9,131	3,108		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	113,186	108,089	5,097			
事業活動収支差額	12,038	9,261	2,777	10.7%	11,299	740
当期資金収支差額	2,053	380	1,673			

10. 小規模多機能ホームぬくもりの家えん

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	66,875	66,494	381			
その他の収入	0	0	0			
収入計	66,875	66,494	381			
事業活動支出	56,449	53,191	3,258		前年度	
人件費	44,893	42,903	1,990	67.1%	64.5%	
事業費	7,655	6,830	825	11.4%	10.3%	
事務費	3,466	3,100	366	5.2%	4.7%	
その他の支出	4,400	4,825	-425		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	60,849	58,016	2,833			
事業活動収支差額	10,426	13,303	-2,877	15.6%	6,688	3,739
当期資金収支差額	6,026	8,478	-2,452			

【ぬくもりの家えん拠点合計】

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	179,860	174,713	5,147			
その他の収入	2,254	250	2,004			
収入計	182,114	174,963	7,151			
事業活動支出	157,396	152,149	5,247		前年度	
人件費	118,281	116,205	2,076	65.8%	66.5%	
事業費	28,211	24,555	3,656	15.7%	14.1%	
事務費	9,596	10,180	-584	5.3%	5.8%	
その他の支出	16,639	13,956	5,941		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	174,035	166,105	2,220			
事業活動収支差額	22,464	22,564	-100	12.5%	17,986	4,478
当期資金収支差額	8,079	8,858	-779			

令和8年度当初予算概況

11. サービス付き高齢者向け住宅ぬくもりの家たかほ

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	32,322	31,697	625			
その他の収入	0	0	0			
収入計	32,322	31,697	625			
事業活動支出	33,957	33,283	674		前年度	
人件費	17,205	16,516	689	53.2%	52.1%	
事業費	10,028	10,261	-233	31.0%	32.4%	
事務費	6,126	5,897	229	19.0%	18.6%	
その他の支出	205	188	17		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	34,162	33,471	691			
事業活動収支差額	-1,635	-1,586	-49	-5.1%	3,232	-4,867
当期資金収支差額	-1,840	-1,774	-66			

12. ヘルパーステーション

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	39,645	37,523	2,122			
その他の収入	0	0	0			
収入計	39,645	37,523	2,122			
事業活動支出	32,699	31,624	1,075		前年度	
人件費	30,390	29,195	1,195	76.7%	77.8%	
事業費	488	657	-169	1.2%	1.8%	
事務費	1,821	1,772	49	4.6%	4.7%	
その他の支出	4,747	3,545	1,202		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	37,446	35,169	2,277			
事業活動収支差額	6,946	5,899	1,047	17.5%	3,965	2,982
当期資金収支差額	2,199	2,354	-155			

13. 総合事業

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	11,317	11,082	235			
その他の収入	0	0	0			
収入計	11,317	11,082	235			
事業活動支出	11,321	10,700	621		前年度	
人件費	6,380	5,772	608	56.4%	52.1%	
事業費	1,853	1,846	7	16.4%	16.7%	
事務費	3,088	3,082	6	27.3%	27.8%	
その他の支出	137	137	0		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	11,458	10,837	621			
事業活動収支差額	-4	382	-386	0.0%	1,132	-1,136
当期資金収支差額	-141	245	-386			

令和8年度当初予算概況

14. 地域交流スペース運営事業

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	322	291	31			
その他の収入	0	0	0			
収入計	322	291	31			
事業活動支出	886	993	-107		前年度	
人件費	0	0	0	0.0%	0.0%	
事業費	809	860	-51	251.2%	295.5%	
事務費	77	133	-56	23.9%	45.7%	
その他の支出	0	0	0		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	886	993	-107			
事業活動収支差額	-564	-702	138	-175.2%	32	-596
当期資金収支差額	-564	-702	138			

【ぬくもりの家たかほ拠点合計】

単位:千円

	本年度当初予算	前年度当初予算	増減	備考		
事業活動収入	83,606	80,593	266			
その他の収入	0	0	0			
収入計	83,606	80,593	266			
事業活動支出	78,863	76,600	514		前年度	
人件費	53,975	51,483	608	64.6%	63.9%	
事業費	13,178	13,624	-44	15.8%	16.9%	
事務費	11,112	10,884	-50	13.3%	13.5%	
その他の支出	5,089	3,870	-107		目標事業 活動収支 差率10%	差異
支出計	83,952	80,470	759			
事業活動収支差額	4,743	3,993	-248	5.7%	8,361	-3,618
当期資金収支差額	-346	123	-248			